

平成 25 年度交通エコロジー・モビリティ財団支援事業

平成25年度  
小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業

# 報告書

平成 26 年 3 月 札幌市





## 【 目 次 】

<b>第 1 章 事業概要</b> .....	<b>1-1</b>
1-1 事業概要.....	1-1
1-2 実施スケジュール.....	1-2
<b>第 2 章 交通環境学習の実施</b> .....	<b>2-1</b>
2-1 交通環境学習の実施概要.....	2-1
2-2 札幌市立山の手南小学校 4 年生における交通環境学習の実践.....	2-2
2-2-1 交通環境学習実践概要 授業者:佐野浩志教諭.....	2-2
2-2-2 指導案.....	2-3
2-2-3 授業資料.....	2-7
2-2-4 意見交換会の実施.....	2-8
2-3 札幌市立山の手南小学校 6 年生における交通環境学習の実践.....	2-9
2-3-1 交通環境学習実践概要 授業者:栗原聡太郎教諭.....	2-9
2-3-2 指導案.....	2-10
2-3-3 意見交換会の実施.....	2-14
2-4 札幌市立福住小学校 3 年生における交通環境学習の実践.....	2-15
2-4-1 交通環境学習実践概要 授業者:河原秀樹教諭.....	2-15
2-4-2 指導案.....	2-16
2-4-3 意見交換会の実施.....	2-20
2-5 札幌市立山鼻南小学校 4 年生における交通環境学習の実践.....	2-21
2-5-1 交通環境学習実践概要 授業者:高橋浩史教諭.....	2-21
2-5-2 指導案.....	2-22
2-5-3 意見交換会の実施.....	2-26
2-6 札幌市立本通小学校 4 年生における交通環境学習の実践.....	2-27
2-6-1 交通環境学習実践概要 授業者:河嶋一貴教諭.....	2-27
2-6-2 指導案.....	2-28
2-6-3 意見交換会の実施.....	2-32
2-7 札幌市立屯田小学校 3 年生における交通環境学習の実践.....	2-33
2-7-1 交通環境学習実践概要 授業者:斉藤健一教諭.....	2-33
2-7-2 指導案.....	2-34
2-7-3 意見交換会の実施.....	2-38
2-8 札幌市立手稲宮丘小学校 6 年生における交通環境学習の実践.....	2-39
2-8-1 交通環境学習実践概要 授業者:牧野宜英教諭.....	2-39
2-8-2 指導案.....	2-40
2-8-3 意見交換会の実施.....	2-44

2-9 札幌市立三角山小学校 1 年生における交通環境学習の実践 .....	2-45
2-9-1 交通環境学習実践概要 授業者:内藤広大教諭 .....	2-45
2-9-2 指導案 .....	2-46
2-9-3 意見交換会の実施 .....	2-49
<b>第 3 章 札幌らしい交通環境学習フォーラムの開催 .....</b>	<b>3-1</b>
3-1 札幌らしい交通環境学習フォーラムの開催概要 .....	3-1
3-2 意見交換会の実施 .....	3-2
3-3 パネルディスカッションの実施 .....	3-3
3-4 参加者アンケート調査結果 .....	3-6
<b>第 4 章 交通環境学習プラットフォームの運用 .....</b>	<b>4-1</b>
4-1 交通環境学習プラットフォームの運用 .....	4-1
4-2 WEB ページの掲載内容 .....	4-1
4-3 交通環境学習プラットフォームの今後の運用について .....	4-3
<b>第 5 章 検討委員会・ワーキンググループの運営 .....</b>	<b>5-1</b>
5-1 検討委員会の開催 .....	5-1
5-1-1 第1回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要 .....	5-1
5-1-2 第2回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要 .....	5-6
5-1-3 第3回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要 .....	5-9
5-2 ワーキンググループの開催 .....	5-12
5-2-1 第1回ワーキンググループの開催概要 .....	5-12
5-2-2 第2回ワーキンググループの開催概要 .....	5-15
5-2-3 第3回ワーキンググループの開催概要 .....	5-19
<b>第 6 章 本事業の取組み報告 .....</b>	<b>6-1</b>
6-1 第8回日本モビリティ・マネジメント会議 .....	6-1
6-2 土木と学校教育フォーラム .....	6-5
6-3 小学生作文コンクール .....	6-7
<b>第 7 章 本事業のまとめと今後の実施内容 .....</b>	<b>7-1</b>
7-1 本事業のまとめ .....	7-1
7-2 今後の実施内容 .....	7-5
7-2-1 今後の実施内容 .....	7-5
7-2-2 本事業を推進する組織体制 .....	7-6
7-2-3 今後の実施スケジュール .....	7-6

## 第1章 事業概要

---

### 1-1 事業概要

#### (1) 業務の名称

平成 25 年度小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業

#### (2) 業務の目的

本業務は、平成 23 年度から平成 25 年度の 3 か年計画のもと、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け実施しており、教材・授業プログラム等を開発し、札幌市教育委員会が発行する指導資料にこのプログラムが反映されることにより、札幌市内において、交通環境学習が広く実践されることを目的としている。

業務 3 年目となる今年度は、研究事業の実践数を増やし、各学年への展開を広げていくとともに、より多くの教諭・関係者に本事業を認知いただくために、教諭・関係者等を対象とするフォーラムを実施する。

#### (3) 業務の項目

- ①「札幌らしい交通環境学習」教材・授業プログラム開発
- ②「札幌らしい交通環境学習」教育プラットフォーム構築
- ③交通環境学習・フォーラムの実施
- ④札幌らしい交通環境学習検討委員会・ワーキンググループの開催
- ⑤完了報告書等の提出

#### (4) 実施期間

平成 25 年 4 月 30 日より平成 26 年 3 月 27 日まで

#### (5) 発注者

札幌市市民まちづくり局総合交通計画部

#### (6) 受注者

一般社団法人 北海道開発技術センター

〒001-0011

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号セントラル札幌北ビル

tel : 011-738-3363 fax : 011-738-1889

## 1-2 実施スケジュール

今年度は、平成24年度の実施結果を受け、研究授業の実践を重ねるとともに、より多くの教諭・関係者に本事業を認知いただくために、教諭・関係者等を対象とするフォーラムを実施した。

また、本事業の成果を全国に発信するために、日本モビリティ・マネジメント会議や土木学会土木と学校教育フォーラムに参加し、発表を行った。

本事業のスケジュールについては以下に示す。

表 1-1 平成25年度スケジュール

	研究授業実践スケジュール	その他
4月		
5月	第1回WG(5/16)	
6月	第1回検討委員会(6/17)	
7月	札幌らしい交通環境学習フォーラム(7/4) ・佐野教諭[山の手南小4年生] ・栗原教諭[山の手南小6年生]	7/12-13 JCOMM 7/28 土木と学校教育F
8月	第2回WG(8/15)	小学生作文コンクール
9月		
10月	・河原教諭[福住小3年生](10/17) ・高橋教諭[山鼻南小4年生](10/28)	
11月	・河嶋教諭[本通小4年生](11/20) ・斉藤教諭[屯田小3年生](11/26)	
12月	・牧野教諭[手稲宮丘小6年生](12/4) 第2回検討委員会(12/26)	
1月		
2月	・内藤教諭[三角山小1年生](2/5) ・第3回WG(2/18)	
3月	第3回検討委員会(3/27)	

## 第2章 交通環境学習の実施

### 2-1 交通環境学習の実施概要

今年度の交通環境学習においては、昨年度に続き、より多くの研究授業を実践し、授業内容を洗練するとともに、これまで実践した学年や単元以外での実施し、交通環境学習の教材としての価値を高めることを目指した。

研究授業の実施については、第5章にて詳述するワーキンググループの中で、実施学年、実施教科、実施単元、実施時期、具体的な授業内容等を検討した。また、これらを検討するために、ワーキンググループの構成員である教諭には、現在、担任を受け持つ学年での実施を想定した指導案を作成いただいた。

ワーキンググループでの検討の結果、1学期は、第3章で詳述する札幌らしい交通環境学習フォーラムのプログラムとして、山の手南小学校の佐野浩志教諭が4年生の総合的な学習の時間、栗原聡太郎教諭が6年生の社会科において研究授業を実践することが決定した。

また、2学期は、福住小学校の河原秀樹教諭が3年生の社会科の時間、山鼻南小学校の高橋浩史教諭が4年生の総合的な学習の時間、本通小学校の河嶋一貴教諭が4年生の総合的な学習の時間、屯田小学校の斉藤健一教諭が3年生の社会科の時間、手稲宮丘小学校の牧野宜英教諭が6年生の社会科の時間において授業を実践することが決定した。

さらに、3学期は、三角山小学校の内藤広大教諭が1年生の道徳の時間で研究授業を実践することが決定した。

表 2-1 研究授業の実践一覧

日時	研究授業実践校	教科	学年	担当教諭	備考
平成 25 年 7 月 4 日	山の手南小学校	総合	4 年	佐野 浩志	札幌らしい交通環境学習フォーラムの公開授業として実施
平成 25 年 7 月 4 日	山の手南小学校	社会	6 年	栗原 聡太郎	
平成 25 年 10 月 17 日	福住小学校	社会	3 年	河原 秀樹	
平成 25 年 10 月 28 日	山鼻南小学校	総合	4 年	高橋 浩史	
平成 25 年 11 月 20 日	本通小学校	総合	4 年	河嶋 一貴	
平成 25 年 11 月 26 日	屯田小学校	社会	3 年	斉藤 健一	
平成 25 年 12 月 4 日	手稲宮丘小学校	社会	6 年	牧野 宜英	
平成 26 年 2 月 5 日	三角山小学校	道徳	1 年	内藤 広大	

なお、次節以降では、実践した研究授業の概要と指導案、授業に用いた資料等を掲載する。

## 2-2 札幌市立山の手南小学校 4 年生における交通環境学習の実践

### 2-2-1 交通環境学習実践概要 授業者：佐野浩志教諭

- 実施日：平成 25 年7月4日(木) 5校時
- 実施校：札幌市立山の手南小学校
- 対象学年：4年生(1クラス)
- 授業者：佐野 浩志 教諭
- 教科：総合的な学習の時間
- 単元：身近なバスと私たちの暮らし

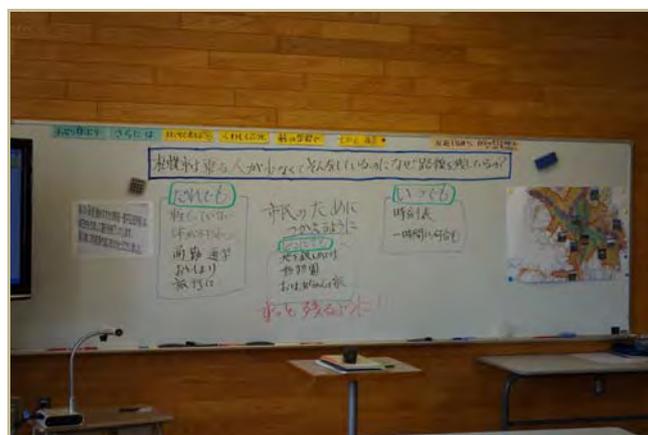


写真 2-1 山の手南小学校（4年生）の交通環境学習の実施の様子

## 2-2-2 指導案

佐野浩志教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 4年生 [総合\_身近なバスと私たちの暮らし] (札幌市立山の手南小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

<b>実施校</b> 札幌市立山の手南小学校	<b>実施日</b> 2013年7月4日（木） 5校時
<b>科目/単元名</b> 総合的な学習の時間 「身近なバスと私たちの暮らし」[6時間扱い 本時 4/6]	<b>指導者</b> 佐野 浩志

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編]

●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項（5）

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、各学校において指導計画を作成し、そこには内容として、目標の実現のために心ざわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、(中略)横断的・総合的な学習のとしての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。(中略)地域や学校、児童の実態に応じて内容を設定し、具体的な学習活動として展開することが求められる。(以下、略)

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

札幌市の公共交通の始まりは明治42年の馬車鉄道から始まる。その後、この馬車鉄道が民営の電車で替わり、この電車事業所を引き継いで市営交通が発足した。その後、昭和5年にはバス事業も始まり、札幌市民の重要な足としての役割を担ってきた。また、札幌市の発展に伴い昭和46年には地下鉄が開業。それ以降、地下鉄を軸としてバスが地下鉄を補うという札幌の公共交通機関網が確立された。

札幌市では、公共の交通機関を使って市街地の実に99%の場所にアクセスが可能である。しかし近年急激なモータリゼーションの影響を受け、バス路線のほとんどを維持しながらも乗車人数がどんどん減っていくという状況が続いている。2010年のバス乗車延べ人数は105百万人余りとなっており、1975年を基準に考えるとほぼ半減していることとなる。その一方で、人口は増え続け、市街地も規模を拡大しているために、路線延長に顕著な減少はない。さらに、同時期に自動車の保有台数は約3倍に増えている。自動車保有台数に影響を受ける形で、バスの乗車人数は減り続け、郊外では路線の減少も始まっている。今後利用者が減り続ければ、交通難民も増え、自動車を持たない市民にとっては大きな問題となることは明らかだ。路線を維持していくことが公共交通の役割である一方、利用者数が伸び悩めば路線の減少もとめられない。このような社会的ジレンマの解決の一助となるように、札幌市の公共交通機関のよさを実感することを通して、その重要性に迫る学習を構築する。

###### ③資料の活用

本実践では、教科書内に札幌市の公共交通について4年生の児童が自分で調べて考える事を保証できるような単元がないために、子どもたちの学習を支える資料としてテキストを作成した。テキスト作成のポイントは以下の通り

①子どもの思考の流れに沿った展開   ②札幌市の公共交通の歴史が見える単元構成  
③子どもが自分で調べ、考える事のできる、ナビゲーション機能   ④単元の終末に考えを深める学習の構成

公共交通は子どもたちにとって、身近にはあるが、なかなか背景や、意図は見えていないものである。モビリティマネジメントの観点から子どもたちに時間軸を意識させる事で、未来へ持続的につなげることのできる学習を構成できると考えた。

自分の祖父母、父母にインタビューをしたり、資料で調べることを通して、今の公共交通がどのように移り変わってきたのかが実感的に理解できる。またそのことと、現在札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深めることのできるようなテキストの構成とした。

図 2-1 佐野教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・札幌市の公共交通機関に関心を持ち、意欲的に調べている。
- ・札幌市の公共交通の果たす役割について考え、適切に表現している。
- ・札幌市の公共交通の移り変わりについて必要な情報を集め、読み取っている。
- ・札幌の公共交通のよさを知り、札幌市の人々の生活の様子を理解している。

### ●単元の構成

	子どものおもな活動		子どものおもな活動
昔の暮らしについて興味を高める（1時間）	<p>札幌市交通資料館に行ってみよう</p> <p>*見学が難しい場合はHP等を利用する</p> <p>札幌の公共交通はいつ頃どのように始まったの？</p> <p>馬車で車を引いているね</p> <p>線路があるね</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の電車は木製だったんだね</li> <li>・地下鉄ができたのはお父さんやお母さんが生まれた頃だったそうだよ</li> <li>・昔のバスには車掌さんがいたよ</li> </ul> <p>札幌市の公共交通はどのように発達してきたのだろう。</p>	札幌市の公共交通について考える	<p>札幌市のバスはいつ頃できてどのように変わっていったのか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗合自動車とよばれていたんだね。</li> <li>・車掌さんがいたそうだよ。</li> <li>・市営バスが廃止になったね。</li> </ul> <p>利用する人が減ってきているね。</p> <p>札幌市ではどうして、乗車人数が減っている中でも路線を残し続けるのだろうか。</p> <p>【だれでも】小学生でもおじいちゃんでも</p> <p>みんなが利用できる</p> <p>【いつでも】時刻表があれば一日何本も</p> <p>【どこへでも】札幌ドームも</p>
	<p>札幌市の路面電車の移り変わりを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬車鉄道は石山軟石を運んだんだね。</li> <li>・市電になったのはすいぶん前だね。</li> <li>・今よりも市電で行ける場所はたくさんあるよ</li> </ul> <p>長い間札幌市民の足として活躍しているね。</p> <p>札幌市の地下鉄はいつ頃できてどのように変わっていったのか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックが開かれたよ</li> <li>・そのため、地下鉄ができたよ</li> </ul> <p>便利な暮らしになってきて、環境も大きく変わったんだね</p>		<p>札幌市民みんなにとって公共交通は大切なんだね</p>
昔の乗り物や暮らしについて知る（3時間）		札幌市の公共交通の便利さを実感する（1時間）	<p>実際にえきバスナビを使いこなしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌ドームへの行き方が分かったよ</li> <li>・今度、おじいちゃんの家へえきバスナビを使って行ってみよう</li> <li>・お家の人にも教えてあげよう</li> </ul> <p>えきバスナビを使うと簡単に色々な所へ行くことができそうだね</p>

図 2-2 佐野教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

- ・バスの乗車人数がどんどんへり、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしている事の意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考える事ができる。

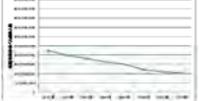
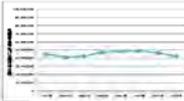
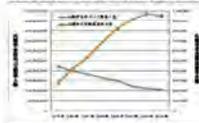
学習展開と児童の思考の流れ	教師のかかわり	
<p>前時までに子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史について調べ、バスが、札幌市民の足として古くから利用されていたことを理解している。</p>	<p>○子どもたちが問いを持つ事ができるように、札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実の提示とその一方で、路線のキロ数に大きな変動のない事実の提示をあわせてする。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>札幌市全体のバス乗車人数</b></p>  <p>・バスに乗る人がどんどん減っている。 ・路線はそんなに変わっていないね。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>札幌市全体のバス運行キロ数</b></p>  </div> </div>	<p>○札幌市が赤字路線に6億円超の補助金を出している事実の提示から問題意識を醸成する。</p>	
<p><b>札幌市では毎年6億4千万円も損をしているのにバス路線を残している</b></p> <p>バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>【だれでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小・中学生や高校生でも</li> <li>◆おとしよりにち</li> <li>◆体が不自由な人でも</li> </ul> </div> <div style="width: 35%; text-align: center;"> <p><b>全ての札幌市民のために</b></p> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>【いつでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆映画を見るときは</li> <li>◆お父さんの出張の時に</li> <li>◆時刻表があれば</li> <li>◆一時間に何本も</li> </ul> </div> </div>	<p>○子どもの考えを「だれでも」という視点と「いつでも」、「どこへでも」という視点に分けて引き出し、板書に分類させる。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>札幌市のほぼ100%の場所に公共の交通機関で行くことが可能</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>【どこへでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆さくらんどもホリデーリングで</li> <li>◆札幌ドームやおしいちゃんの家まで</li> </ul> </div> </div>	<p>○「だれでも」、「いつでも」、「どこへでも」の見方や考え方を確かにするために子どもの考えを切り返し、ゆさぶっていく。</p>	
<p>○このままだとどんどん路線がなくなり続けるのでは？</p> <p><b>【いつまでも】</b></p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>札幌市全体のバス乗車人数と自動車保有台数</b></p>  <p>どうなることが自分たちの未来にとって一番いいのだろう</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	<p>○「市街化区域における公共交通機関へのアクセス状況」のグラフの提示から、公共交通機関で札幌市内で人が生活している場所のほぼ100%の場所に行くことができる事実を押さえる。</p>	
<p>札幌市はだれでも、いつでも、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね</p>		
<p>板書計画</p>	<div style="text-align: center;"> <p>バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p><b>【だれでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小学生でも</li> <li>◆おしいちゃんでも</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p><b>みんなが利用できる</b></p> <p><b>【どこへでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆札幌ドームへ</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p><b>【いつでも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆時刻表があれば</li> <li>◆一時間に何本も</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;"> <p><b>【いつまでも】</b></p> </div> <p>札幌市はだれでも、いつでも、どこへでも、そして、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね</p> </div>	

図 2-3 佐野教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

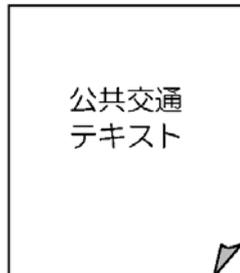


図 2-4 佐野教諭の指導案④

### 2-2-3 授業資料

佐野浩志教諭が児童に配布する用に作成したテキスト（授業資料）を以下に示す。



図 2-5 佐野教諭の授業資料の表紙

#### 2-2-4 意見交換会の実施

研究授業実践後に札幌市教育委員会菅野指導主事の進行のもと実施した意見交換会における主な意見を以下に示す。

- ・授業力が高く、4年生とは思えない内容であった。
- ・子ども達に知識として、公共交通の事を知らせる・伝えることも学習として重要性を再確認した。
- ・地域のバスが「あってもいい」から「あったらいい」に具体化されると、もっと良かったと感じた。
- ・札幌市は交通環境が充実していることを、再確認し、学校や家族の話題に挙がることで、意識が深まっていくものと感じた。
- ・色々な立場の視点で考えることが出来るこの学習は、公共性が養われる良い授業と感じた。
- ・子どもの中に時間軸を作ってあげ、子どもが50歳・60歳になった時の視点に立たせることが出来ると良い。
- ・テキストの中に、最近のバスの事例もあると良く、さらに、停留所まで行き、実際にどんなバスが来るかを見に行くことも出来ると感じた。
- ・「バスに乗りたい」と思った子が乗れる環境を作るために、親の意識を変えていくことも重要で、教育関係者のほか、バス事業者、行政が連携をすることが重要と感じた。
- ・総合学習であることから、実際に利用者にインタビューしたり、学校に交通局の方に来ていただいたり、家族の話を聞いたりなどをして、生の声が子どもの口から出るともっと良かった。

## 2-3 札幌市立山の手南小学校 6年生における交通環境学習の実践

### 2-3-1 交通環境学習実践概要 授業者：栗原聡太郎教諭

- 実施日：平成 25 年7月4日(木) 6校時
- 実施校：札幌市立山の手南小学校
- 対象学年：6年生(1クラス)
- 授業者：栗原 聡太郎 教諭
- 教科：社会科
- 単元：「暮らしの中の政治～市電から札幌市の政治がみえる～」



写真 2-2 山の手南小学校の交通環境学習の実施の様子

## 2-3-2 指導案

栗原聡太郎教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 6年生【社会\_暮らしの中の政治】（札幌市立山の手南小学校）

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■実施例

実施校 札幌市立山の手南小学校 実施日 2013年7月4日（水） 6校時

科目/ 社会「暮らしの中の政治～身近な暮らしと政治～」 指導者 栗原 聡太郎  
单元名 [6時間扱い 本時4/6]

#### 【指導計画】

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 社会編]

###### ●目標と内容（2）

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

###### ●内容の取扱い（2）

ウ アの「地方公共団体や国の政治の働き」については、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から選択して取り上げ、具体的に調べられるようにすること。

政治の働きについての指導では、学習が抽象的にならないよう、また、調べる事例が羅列的にならないように、児童の関心や地域の実態に応じて、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から事例を一つ選択して取り上げ、具体的に調べられるようにすることが考えられる。

（中略）

また、地域の開発を取り上げる場合、その事業について、計画から実施までの経過、規模や予算に着目し、その事業の実施に当たっては、市役所、県庁が、それぞれの地域の実態に応じて、住民の願いを取り入れながら、国と協力したり長期的な見通しを立てたりして、望ましい施策を決定し、実行していることを具体的に調べるようにする。

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

札幌市の公共交通の歴史をたどると、明治42年の馬車鉄道にまでさかのぼる。その後、馬車鉄道が市営電車に変わり、昭和5年にはバス事業が始まり、昭和46年には地下鉄の営業も開始した。札幌市の発展とともに公共交通の役割は大きくなり、札幌市民の足として市民に親しまれてきた。

しかし、近年の自動車普及と都市の郊外化に伴い、急速に公共交通の利用人数は減少してきている。そのため、多くのバス路線が赤字路線に変わり、多額の補助金を投入しなければ運営維持できない状況になっている。札幌市の路面電車も例外ではない。慢性的な赤字経営が問題となり廃線の声が上がってきたのである。

しかし、札幌市は市電の存続を平成17年に決定した。市民との幅広い議論の末、市民の願いを受け、路面電車をまちづくりの中で積極的に活用していくという考えのもと、平成24年には「西4丁目」と「すすきの」をつなぎ、路線をループ化する計画を策定した。

このように公共交通の魅力を再発見し、市民と共に新たなまちづくりへと踏み出す札幌市の姿は全国の公共交通をとりまく多くの問題の解決の糸口になると考える。このような「さっぽろ」らしい公共交通のあり方を子どもたちと学び、北の大地から全国へ発信していきたい。

###### ③教科書の活用

教科書では東京都世田谷区の新BOPを取り上げている。しかし、教科書の事例では政治の働きについて具体的に学習を進めることは難しい。そこで、本実践では、札幌市の路面電車活用計画を取り上げる。札幌の子どもたちにとって身近な市電を扱うことで、国民生活の安定と向上を目的とした政治の在り方をより自分たちの生活を結びつけて捉えることができると考える。

また、教科書の資料や構成は積極的に学習に取り入れてく。子どもが理解するのに容易ではない政治の仕組みや施策決定までの流れなどは教科書の資料を活用しながらおさえていく。

このように、教科書の構成に札幌市の具体的な政治の働きをあてはめ、効果的・効率的に学習を進めていく。

図 2-6 栗原教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・日常生活における政治の働きと役割に関心をもち、意欲的に調べている。
- ・政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現している。
- ・国民生活と地方公共団体や国の政治とのかかわりについて調査したり、基礎的資料を活用したりして調べている。
- ・国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。

### ●単元の構成

札幌市の現状を知り、身近な公共施設や制度を学ぶ(2時間)	<p>子どものおもな活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りが増える</li> <li>・子どもが少なくなっていくよ</li> <li>・暮らしが変わっていくね</li> </ul> <p>誰もが住みよいまちにするための制度や仕組みにはどのようなものがあるのだろうか？</p> <table border="1"> <tr> <td>【公共施設】</td> <td>【 条 例 】</td> </tr> <tr> <td>・市電 ・券売機 ・スロープ ・看板</td> <td>・子どもの権利条例 ・福祉のまちづくり条例 等々</td> </tr> </table> <p>誰もが住みよいまちにするために公共施設や条例が整えられているんだね。</p> <p>札幌市の市電(公共施設)を調べよう。</p> <table border="1"> <tr> <td>【市電の歴史】</td> <td>【札幌のシンボル】</td> </tr> <tr> <td>・市民の足 ・廃線が続く</td> <td>・北海道遺産 ・観光の見所</td> </tr> </table> <p>札幌の市電は長い間札幌を支えた乗り物で、札幌市のシンボルなんだね。</p>	【公共施設】	【 条 例 】	・市電 ・券売機 ・スロープ ・看板	・子どもの権利条例 ・福祉のまちづくり条例 等々	【市電の歴史】	【札幌のシンボル】	・市民の足 ・廃線が続く	・北海道遺産 ・観光の見所	<p>子どものおもな活動</p> <p>路線をループ化</p> <p>路線のループ化には、どんな良い点と問題点があるのだろうか？</p> <table border="1"> <tr> <td>【良い点】</td> <td>【問題点】</td> </tr> <tr> <td>◆利用者が増える ◆観光客が増える ◆お店がもうかる ◆誰でも乗りやすい</td> <td>◆タクシーが止まらない ◆荷物の積み下ろしができない ◆大金がかかる</td> </tr> </table> <p>【市長】 ←→ 【市議会】</p> <p>魅力都市札幌</p> <p>【市民】</p>	【良い点】	【問題点】	◆利用者が増える ◆観光客が増える ◆お店がもうかる ◆誰でも乗りやすい	◆タクシーが止まらない ◆荷物の積み下ろしができない ◆大金がかかる
	【公共施設】	【 条 例 】												
・市電 ・券売機 ・スロープ ・看板	・子どもの権利条例 ・福祉のまちづくり条例 等々													
【市電の歴史】	【札幌のシンボル】													
・市民の足 ・廃線が続く	・北海道遺産 ・観光の見所													
【良い点】	【問題点】													
◆利用者が増える ◆観光客が増える ◆お店がもうかる ◆誰でも乗りやすい	◆タクシーが止まらない ◆荷物の積み下ろしができない ◆大金がかかる													
住民の願いが実現する仕組みを学ぶ(2時間)	<p>存続 68.7% → 赤字経営 → 廃止 19.3%</p> <p>どうして、市長は市電の存続を決めたのだろうか？</p> <table border="1"> <tr> <td>【市民の願い】</td> <td>魅力都市 さっぽろ</td> <td>【まちづくり】</td> </tr> <tr> <td>・会議での声 ・アンケート</td> <td></td> <td>・観光の名物に ・車に頼らない</td> </tr> </table> <p>【市長】 ←→ 【市議会】</p> <p>行政・選挙 ↑ ↓ 選挙 ↑ ↓</p> <p>【市民】</p> <p>市民の代表として市民の願いを大切にしながら政治を行うことが大事なんだね。</p>	【市民の願い】	魅力都市 さっぽろ	【まちづくり】	・会議での声 ・アンケート		・観光の名物に ・車に頼らない	<p>税金のはたらきを知り、他の事例から政治の仕組みについての理解を確かめる(2時間)</p> <p>札幌市と市民とがともに意見を出し合ってまちづくりをすすめることが大事なんだね。</p> <p>税金はどのように納められ、どのように使われるのだろうか？</p> <p>所得税 法人税 消費税 住民税</p> <p>税金を納める</p> <p>公共施設 道路整備 安全な暮らしを守る 障害のある人の支援</p> <p>様々な税によって国民から集められ、道路整備や福祉、教育など国民のために使われるんだね</p> <p>札幌市以外のまちでも同じように政治が進められているのか確かめよう。</p> <p>【区役所】 ←→ 【区議会】</p> <p>新BOP制度</p> <p>【住民】</p> <p>日本全国、どの場所でも住民の願いを取り入れて政治が行われているんだね。</p>						
【市民の願い】	魅力都市 さっぽろ	【まちづくり】												
・会議での声 ・アンケート		・観光の名物に ・車に頼らない												

図 2-7 栗原教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

- ・市電の路線をループ化することの利点と問題点を考えることを通して、市の政策が市民との対話を大切にしながら進められていくことや市と市民が共に政治を行っていくことの責任や大切さに気付くことができる。

学習展開	教師のかかわり			
<p>前時までに子どもたちは札幌市の観光客が減少していることや市電の歴史、市電が市民との対話のもと存続し、路線のループ化が決定したこと理解している。</p>  <p><b>札幌市路面電車活用計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型車両を購入する</li> <li>・すすきのと西4丁目をつなぐ</li> <li>・サイドリザーベーション方式</li> </ul>	<p>○ループ化についての学習を想起できるように、児童が書いた前時のふり返りノートを紹介する。</p> <p>○新聞記事を提示しループ化計画にはメリットやデメリットがあることを伝える。</p>			
<p>路線のループ化には、どんな良い点と問題点があるのだろうか？</p>				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="274 817 558 1120"> <p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が増える</li> <li>◆観光客が増える</li> <li>◆市電の周りのお店がもうかる</li> <li>◆だれでも乗りやすい (お年寄り、体が不自由な人)</li> <li>◆気軽に利用できる</li> </ul> </td> <td data-bbox="558 817 1021 1120"> <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆タクシーが止まらない</li> <li>◆荷物の積み下ろしができない</li> <li>◆車道が狭くなる</li> <li>◆お金がたくさんかかる →19億円</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が増える</li> <li>◆観光客が増える</li> <li>◆市電の周りのお店がもうかる</li> <li>◆だれでも乗りやすい (お年寄り、体が不自由な人)</li> <li>◆気軽に利用できる</li> </ul>	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆タクシーが止まらない</li> <li>◆荷物の積み下ろしができない</li> <li>◆車道が狭くなる</li> <li>◆お金がたくさんかかる →19億円</li> </ul>	<p>○ループ化の利点と問題点を新聞記事から具体的に考えることができるようにかかわる。</p> <p>○より多くの児童が意見を表出できるようループ化のよさと問題点について小グループで交流する場を設ける。</p>	
<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が増える</li> <li>◆観光客が増える</li> <li>◆市電の周りのお店がもうかる</li> <li>◆だれでも乗りやすい (お年寄り、体が不自由な人)</li> <li>◆気軽に利用できる</li> </ul>	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆タクシーが止まらない</li> <li>◆荷物の積み下ろしができない</li> <li>◆車道が狭くなる</li> <li>◆お金がたくさんかかる →19億円</li> </ul>			
<p>だれが、どのようにループ化の計画を進めていってだろうか？</p>				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="274 1164 478 1377"> <p>【札幌市の責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民の声や願いを取り入れながらまちづくりを行う</li> </ul> </td> <td data-bbox="478 1164 798 1377"> <p>市電ループ化が決定するまで</p>  </td> <td data-bbox="798 1164 1021 1377"> <p>【市民の姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆意見を積極的に出す</li> <li>◆政治に関心をもつ</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>【札幌市の責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民の声や願いを取り入れながらまちづくりを行う</li> </ul>	<p>市電ループ化が決定するまで</p> 	<p>【市民の姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆意見を積極的に出す</li> <li>◆政治に関心をもつ</li> </ul>	<p>○市長、議会、市民が共に計画を進めてきたこと理解させるために、ループ化の計画をだれが進めたのか問い、図を用いて説明する。</p>
<p>【札幌市の責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民の声や願いを取り入れながらまちづくりを行う</li> </ul>	<p>市電ループ化が決定するまで</p> 	<p>【市民の姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆意見を積極的に出す</li> <li>◆政治に関心をもつ</li> </ul>		
<p>札幌市と市民とがともに意見を出し合ってまちづくりをすすめることが大事だね。</p>				
<p>○市長、議会、市民が共に計画を進めてきたこと理解させるために、ループ化の計画をだれが進めたのか問い、図を用いて説明する。</p> <p>○市民と対話を進めながら計画を進めてきたことがわかるよう、ワークショップや市民会議の写真を提示する。</p> <p>○市民が政治に対して関心をもつ大切さに気付くことができるように、ループ化計画に寄せられたパブリックコメントの数を提示する。</p>				

路線のループ化には、どんな良い点と問題点があるのだろうか？		
<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が増える</li> <li>◆観光客が増える</li> <li>◆市電の周りのお店がもうかる</li> <li>◆だれでも乗りやすい (お年寄り、体が不自由な人)</li> <li>◆気軽に利用できる</li> </ul>	<p>【札幌市】 市長 — 議会</p> <p><b>魅力都市 さっぽろ</b></p> <p>【市民】 関心をもつ 意見を出す</p>	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆タクシーが止まらない</li> <li>◆荷物の積み下ろしができない</li> <li>◆車道が狭くなる →渋滞が起きる</li> <li>◆お金がたくさんかかる</li> </ul>
<p>札幌市と市民とがともに意見を出し合ってまちづくりをすすめることが大事。</p>		

図 2-8 栗原教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料と本時の様子

●本時で活用する資料

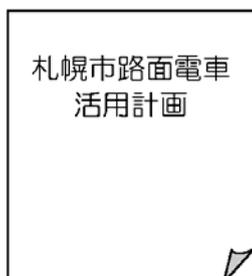


図 2-9 栗原教諭の指導案④

### 2-3-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に札幌市教育委員会菅野指導主事の進行のもと実施した意見交換会における主な意見を以下に示す。

- ・子ども達の思考のスタミナが素晴らしいと感じた。
- ・政治単元は難しく、札幌の地域資源である市電を教材に出来る点は素晴らしい。
- ・市電を望んだ市民が、より明確になると良い。例えば世田谷のBOPのように、子どもを預けられる保護者というような。
- ・政治単元であることから、誰がどのように「ループ化」の計画を進めていったが明確になると良い。
- ・例えば、子ども達に擬似投票をさせるのも、方法としては、あるかと感じた。
- ・新型車両については、これまでの車両と比べて、ここが良い、但し、値段はこれだけします。という学習展開も必要かと感じた。
- ・政治単元は仕組みだけを教えてしまいがちだったため、自分の街のことを学習出来ることが良いと感じ、子どもの食いつき方も変化すると思う。
- ・札幌らしい授業を実施するとなると、色々なデータや写真が必要となるため、行政の方々の協力を得たい。
- ・路面電車の「新しい計画」といった時に、新型車両なのか、ループ化なのか、駅の新設なのか、サイドリザベーションなのか、より、焦点を絞り込んでスタートする方法もあったかと思う。
- ・政治単元は租税教育と密接に関わってくる部分であるので、20億円と簡単に言うのではなく、お金の重みを分かった上で、この授業を展開すると、子ども達の発言にも重みが出てくるかを感じる。
- ・これまで歴史的に大事にしてきた市電を、札幌の顔としてまちづくりに活かすということが、時間軸で見えてくると単元の本質に迫る授業になったかを感じる。

## 2-4 札幌市立福住小学校3年生における交通環境学習の実践

### 2-4-1 交通環境学習実践概要 授業者：河原秀樹教諭

- 実施日：平成25年10月17日(木) 5校時
- 実施校：札幌市立福住小学校
- 対象学年：3年生(1クラス)
- 授業者：河原 秀樹 教諭
- 教科：社会科
- 単元：「わたしたちの市のようす」



写真 2-3 福住小学校の交通環境学習の実施の様子

## 2-4-2 指導案

河原秀樹教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 3年生 [社会\_わたしたちの市のようす] (札幌市立福住小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

<b>実施校</b>	札幌市立福住小学校	<b>実施日</b>	2013年10月17日（木） 5校時
<b>科目/単元名</b>	社会「わたしたちの市のようす」 <small>〔10時間扱い〕 本時9/10〕</small>	<b>指導者</b>	河原 秀樹

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 社会編]

- 目標（3）

地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。
- 内容（1）

自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。
- 内容（ア）

身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など

「交通の様子」を調べるとは、身近な地域や市で生活している人々などが利用している主な道路や鉄道などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、それらの名称や主な経路などを具体的に調べ、白地図に書き表すことである。交通の様子について調べる際には、身近な駅やバス停とその周りの様子を観察、調査したり電車バスなどの路線図や時刻表を手掛かりにしたりして、自分たちの住んでいる市と近隣の市との結びつきに気付くようにすることが考えられる。

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

子どもたちは普段の生活の中で、自動車をよく利用し、便利さを実感している。その一方で、生活圏には地下鉄福住駅があり、地下鉄があると、時間通りに移動できることや冬の気候にも左右されずに移動できるよさも体感している。福住駅ができたことにより、駅周辺にはマンションが立ち並んだり、札幌ドームへアクセスしやすくなったりしていることにも気付いている。

しかし、地域にある羊ヶ丘通りや国道36号線、福住桑園通や福住中央通など、大きな道路が多数存在し、たくさんのバス路線があることにはなかなか目を向けていない。

自分たちの地域には、バスという公共交通があるという視点を加えることにより、目的に合わせて利用する交通手段を選べることに気付いていく子どもの姿を求めていくことが大切である。

###### ③資料の活用

本実践は公共交通の中でも、子どもたちがあまり利用することのないバスについて考えることで、地下鉄のよさと、バスのよさの両面に気付いていけることを狙っている。そのために、路線図や、バス停の時刻表などを手掛かりにして学びを進めていく。

図 2-10 河原教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・札幌市の土地の様子や、各区の様子について調べようとする。
- ・札幌市内の主な公共施設や観光施設について調べ、役割や場所などについて表現を工夫してまとめることができる。
- ・施設を利用するいろいろな人のために、交通の利便性を考えて街がつけられていることについて考えることができる。
- ・札幌市の地形の特徴や、各区の様子、交通の様子が分かる。

### ●単元の構成

札幌市の土地利用の様子【2時間】	<p style="text-align: center;">子どもの主な活動</p> <p style="text-align: center;"><b>札幌市ってどんなまち？</b></p> <p style="text-align: center;"><b>第1次 札幌の地形のひみつを調べよう</b></p> <p style="text-align: center;">航空写真を見て、 札幌の地形の特徴を調べよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">山が広がっている。 藻岩山だ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">JRタワーやテレビ塔など高い建物がある。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">一軒家が固まっているところだ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">丘珠空港やたまねぎ畑がある</div> </div> <p>札幌の西と南は、山だね</p> <p>中心地はビルゾーンだね。</p> <p>平らだから住宅地なのかな</p> <p>東の方は畑が多いね</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center; color: orange;">札幌市内の様子は、場所によってすごいぶんちがいがあるんだね。10の区の様子をくわしく調べてみよう。</p> <p style="text-align: center;">第2次 10の区の様子を調べよう</p> <p style="text-align: center;">それぞれの区の様子を調べよう</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">南区 とても広い自然山 定山溪ダム</td> <td style="width: 33%;">東区 たまねぎ畑 モエリ沼公園 さとらんど 丘珠空港</td> <td style="width: 33%;">西区 農試公園 琴似発寒川</td> </tr> <tr> <td>北区 北海道大学 防風林</td> <td>中央区 観光地 ビル デパート JR札幌駅</td> <td>豊平区 札幌ドーム りんご並木</td> </tr> </table>	南区 とても広い自然山 定山溪ダム	東区 たまねぎ畑 モエリ沼公園 さとらんど 丘珠空港	西区 農試公園 琴似発寒川	北区 北海道大学 防風林	中央区 観光地 ビル デパート JR札幌駅	豊平区 札幌ドーム りんご並木	<p style="text-align: center;">子どもの主な活動</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">清田区 住宅地 平岡公園</td> <td style="width: 25%;">手稲区 手稲山 手稲稲穂公園 手稲プール</td> <td style="width: 25%;">白石区 国道12号線 物流</td> <td style="width: 25%;">厚別区 開拓の村 青少年科学館</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; color: orange;">公共施設や観光施設はたくさんあるんだね。それぞれの場所やどんな施設なのかがわかったぞ。</p>	清田区 住宅地 平岡公園	手稲区 手稲山 手稲稲穂公園 手稲プール	白石区 国道12号線 物流	厚別区 開拓の村 青少年科学館
南区 とても広い自然山 定山溪ダム	東区 たまねぎ畑 モエリ沼公園 さとらんど 丘珠空港	西区 農試公園 琴似発寒川										
北区 北海道大学 防風林	中央区 観光地 ビル デパート JR札幌駅	豊平区 札幌ドーム りんご並木										
清田区 住宅地 平岡公園	手稲区 手稲山 手稲稲穂公園 手稲プール	白石区 国道12号線 物流	厚別区 開拓の村 青少年科学館									
札幌市10区の様子【5時間】		<p style="text-align: center;">第3次 札幌市の公共交通を調べよう</p> <p style="text-align: center;">なぜ公共施設や観光施設は地下鉄のまわりに多いのかな？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p style="text-align: center;">札幌市にバスがあることによさって何だろう？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p style="text-align: center; color: orange;">札幌市の公共交通っていろいろな場所をつないでいて、すごいな。今度乗って出かけてみたい。</p> <p style="text-align: center;">札幌市の自慢カードを作ってみんなに発表しよう。</p>										

図 2-11 河原教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

・札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを考えることができる。（思考・判断・表現）

#### ●展開

学習展開	教師のかかわり
<p>(前時まで)  <b>前時までの学習 札幌市のようにすをさくろう</b>            その①土地のつくり 南西は山！北東は平ら！豊平川が流れてる！            その②区ごとのようす 区によってとくちょうがちがった！            その③公共しせつ 地下鉄のそばにあって利用しやすい！</p> <p><b>地下鉄</b> 札幌市の公共交通</p> <p>地下鉄は一度に750人もはこべる。便利だよ。</p> <p><b>バス</b> バスのよさって何かな？</p> <p>バスはあまり利用することがないよ。</p> <p><b>札幌市にバスがあることよさって何だろう？</b></p> <p><b>地下鉄のよさ</b>            ・一度にたくさん            ・冬でも安心            ・公共施設へすぐ行ける            ・時間通り</p> <p><b>バスのよさ</b>            ・地下鉄から遠い人も            ・地下鉄の駅と駅の間            ・近い距離も行ける            ・家から近いと便利            ・新千歳空港にも行ける</p> <p>えらんで使うとべんりだ！！</p> <p>学校から真駒内までは、地下鉄で行くより、バスの方が早い。</p> <p><b>地下鉄とバスは札幌の足になっている！！</b>  <b>公共交通のカバー率</b>            札幌市のほぼ100%行けるなんてすごい。</p> <p>学校の前から大通や札幌駅まで行けるんだ。</p> <p><b>地下鉄49駅</b> <b>バス停約2000</b></p> <p><b>地下鉄とバスが両方あると、札幌市民の生活がべんりになるね。今度、乗って出かけてみたいな。</b></p>	<p>教師のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通とは何かを振り返る。</li> <li>・地下鉄のよさを想起していく。</li> <li>・子どもがあまり利用しないバスのよさを考えるようにする。</li> <li>・福住小学校校区にある地下鉄駅の数とバス停の数を数え、バス停の数の多さに気付かせる。</li> <li>・停留所にある行き先や時刻表を用いて、具体的な経路を視覚的に分かるようにしていく。</li> <li>・地下鉄でもバスでも同じ場所に行けることよさを考えていく。</li> <li>・公共交通で札幌市のほぼ100%カバーされていることに気付くようにする。</li> </ul>
<p><b>板書計画</b></p> <p>地下鉄のよさ            (はやい 一度に750人 時間通り)</p> <p>49 駅</p> <p>札幌の 100%</p> <p>札幌市にバスがあることよさって何だろう？</p> <p>バスのよさ            歩よりはやく 急いのかい時 家の近くまで 行きたい所まで 時刻表</p> <p>2000 箇所</p> <p>福住校 16箇所</p> <p>バスでも</p>	

図 2-12 河原教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

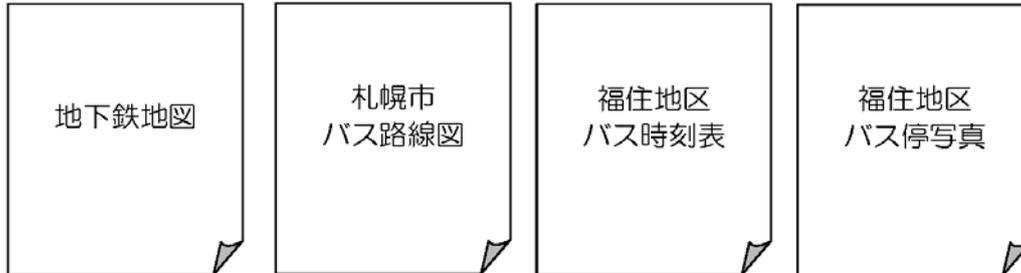


図 2-13 河原教諭の指導案④

### 2-4-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・よい学級づくりがされており、子どもたちがしっかり考えながら授業をしていた。
- ・札幌らしさが前面に出ている授業だった。
- ・前時の学習がしっかりされていたことで、本時がとても良い授業となっていた。
- ・子どもたちは、生活経験のある地下鉄の話ができていたため、身近な内容と捉えて、興味関心が高まっていると感じた。そのため、後半にいくにつれ授業全体に盛り上がりがあり、大変すばらしい授業だった。
- ・時刻表を教材に使用していたが、子どもたちがきちんと活用できていたのが驚きだった。
- ・札幌市内のバス停の数を提示するなど着眼点の良い授業だった。
- ・授業は、面で広がっている構成になっており、スタンダードな内容だった。
- ・3年生のモデル授業になり得る内容だった。
- ・バスレーンやハイグレードバス停なども、総合的な学習の時間での授業は可能だと思われる。
- ・福住地区は、公共交通に恵まれた地区であり、教材としても扱いやすかったと思われる。
- ・本授業の他の展開として、白地図にプロットしていく、足を動かして調べる授業の方向性もある。

## 2-5 札幌市立山鼻南小学校 4 年生における交通環境学習の実践

### 2-5-1 交通環境学習実践概要 授業者：高橋浩史教諭

- 実施日：平成 25 年 10 月 28 日(月) 6校時
- 実施校：札幌市立山鼻南小学校
- 対象学年：4年生(1クラス)
- 授業者：高橋 浩史 教諭
- 教科：総合的な学習の時間
- 単元：「わたしたちの暮らしと市電」



写真 2-4 山鼻南小学校の交通環境学習の実施の様子

## 2-5-2 指導案

高橋浩史教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 4年生 [総合\_わたしたちのくらしと市電] (札幌市立山鼻南小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

実施校 札幌市立山鼻南小学校

実施日 2013年10月28日（月） 6校時

科目/単元名 総合的な学習の時間「わたしたちのくらしと市電」  
〔12時間版（1） 本時9/12〕

指導者 高橋 浩史

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

〔小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編〕

###### ●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項（5）

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、各学校において指導計画を作成し、そこには内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、（中略）横断的・総合的な学習のとしての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。（中略）地域や学校、児童の実態に応じて内容を設定し、具体的な学習活動として展開することが求められる。（以下、略）

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

本校の校区のすぐそばを市電が通る。電車事業所も校区に隣接し、今春から導入された新型車両も目にすることができる。街中を走る市電の姿は、子どもたちにとって見慣れた光景である。

一方で、市電を日常的に利用する子どもは、多くはない。自家用車の普及を始めとしたモータリゼーションの発達で、札幌市の市電の運営状況にも大きな影響を与えている。

本単元の学習を、「過去—現在—未来」という時間の流れを軸に構成する。札幌市の発展を支えてきた市電の歴史と、路線や乗客数の減少という問題に直面している現在。そして、さらに多くの市民に愛される市電を目指す、これからの市電のあり方。時間の流れを見つめることで、様々な問題に直面しながらも、それを乗り越えようとする人の営みが見えてくる。

電車事業所見学や資料の読み取り・保護者への聞き取り調査などの活動を通して、市電の運営に携わる人々の営みを、具体的かつ共感的に探求することができる学習を展開していきたい。

本単元の学習を通して、子どもにとって地域のくらしを支えている人々の存在がより身近になり、地域に対する確かな愛着が育まれることを願っている。

###### ③資料の活用

本単元の学習では、児童の実態に応じた資料を教師が作成し、配布して使用する。

図 2-14 高橋教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・身近な公共交通機関である市電の歴史や現状について、興味をもち、自己課題を設定することができる。
- ・見学活動や聞き取り調査などの活動を通して、自己課題の解決に必要な情報を収集することができる。
- ・自己課題と調べたことを結び付け、市電のよさや今後のあり方について考えを深めることができる。
- ・市電のよさと今後のあり方について、市電新聞にまとめ、他者に発信することができる。

### ●単元の構成



図 2-15 高橋教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

- ・電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、さらに新型低床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを考えることができる。

#### ●展開

学習展開		教師のかかわり
<p>(前時まで) 電車事業所見学や聞き取り調査などの活動を通して、市電の運行に様々な人が関わっていることや、路線や乗客者数の減少が続く市電の問題点について理解している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検後の車両の使い方を比較し、問題意識を生む。</li> <li>・左記の事実はあくまでも原則であることを子どもに伝える。(乗客者数や点検の状況によって、変更する事も有り得る。)</li> </ul>
<p>旧型の車両 一月6回程度の点検の日は、その車両は使わない</p>	<p>新型低床車両 一点検の日も、点検終了後、午後から運行</p>	
<p><b>新型低床車両は、ほぼ毎日運行させている</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両を運行させている電車事業所の立場で、子どもたちの思考を整理する。</li> <li>・問い合わせの電話が続いている事実を市民の立場で考えることで、新型車両に対する期待感に気づかせる。</li> </ul>
<p><b>新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！</b></p>		
<p>普段から利用する人たちのために ・広い窓で景色を楽しんでほしい ・お年寄りや体の不自由な人に、快適に移動してもらいたい ・広い車両で たくさんの人を運べるように</p>	<p>まだ乗ったことがない人のために ・多くの人に、新型車両に乗ってもらいたい ・その日しかない観光客にも乗ってもらうため ・見てもらうだけでも、新型低床車両の存在が伝わるから</p>	
<p><b>広めるために！</b></p>		
<p><b>一人でも多くの人に</b></p>		
<p><b>快適な車両を</b></p>		
<p><b>新型低床車両のよさを、より多くの人に広めたい！</b></p> <p>実は、新型車両が運行してからほぼ毎日…</p> <p>( 新型低床車両が走る時刻についての問い合わせが、電車事業所に届いている。 )</p>		
<p>新型車両に興味のある人が それだけ多いのだと思うよ。</p>	<p><b>市民の期待</b></p>	<p>まだ乗ったことがない市民も 大勢いるのではないかな。</p>
<p><b>市民の期待にこたえるために！</b></p>		
<p><b>多くの市民の期待を背負った新型低床車両だからこそ、ほぼ毎日運行させて、多くの人によさを広めようとしているんだね！</b></p>		

板書計画

新型低床車両とほぼ毎日運行させている理由を考えよう！

<p>新型車両 点検の終了後も午後から運行</p>	<p>新型低床車両のよさを広めたい！</p> <p>市民の期待にこたえるために</p>	<p>あまり利用しない人のために 多くの人に知らせよう</p> <p>まだ乗ったことがない市民も大勢いるのではないかな。</p>
-------------------------------	---	--

新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！

図 2-16 高橋教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料



図 2-17 高橋教諭の指導案④

### 2-5-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・子どもたちが、ノートによく書いて、発言できていた。
- ・興味を持たせる授業の入り方だった。
- ・子どもの発表に具体例が出ており、日常の取り組みの成果が見える。
- ・ポラリスの良さがしっかりと伝わった授業であったが、子どもの変容がなかったので授業の深まりが必要だと思われる。
- ・新車両になり、座席数が減っていることで葛藤が生まれるかと思う。その葛藤を利用した授業の展開は可能か？（高齢者に席を譲る行為が生まれる等）
- ・新車両になったがいいことばかりではない。その理由を話し合ってみる授業も良いかと思う。
- ・授業の深まりとして、札幌市に問い合わせがあった新車両に関する内容や件数を、授業で活用するのはどうか？課題を持たせることになるので良いと思う。
- ・指導案としては良いと思うので、使用する指導者が指導案の内容を選択して実施すればいいのではないか。
- ・市電がテーマであるため、市電が身近にない学校での授業には課題が残る。
- ・市電を知り考えることで、他の公共交通も考えるようになるのではないかと期待が持てた。
- ・子どものうちに乗車体験させることが大切。事業所見学などの体験学習ができるのが良い。希望校には、見学や体験ができるような仕組みはできないか？



## 2-6-2 指導案

河嶋一貴教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 4年生【総合\_わたしたちのくらしと公共交通】(札幌市立本通小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

<b>実施校</b>	札幌市立本通小学校	<b>実施日</b>	2013年11月20日（水） 6校時
<b>科目 / 単元名</b>	総合的な学習の時間 「わたしたちのくらしと公共交通」[10時間扱い 本時6/8]	<b>指導者</b>	河嶋 一貴

#### 【指導計画】

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編]

●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項（5）

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報・環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、目標実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。本教材は、身近な公共交通に焦点化し、交通の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を取り上げる。教科の枠組みをこえた横断的・総合的な課題に迫る「交通環境学習」を通じて、広く環境意識や公共の精神を醸成することを目指す。

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

本校の校区には、数多くのバス路線とJR白石駅がある。徒歩圏内に地下鉄南郷7丁目駅があり、公共交通に恵まれた地域といえる。

一方で、家族が公共交通をどのくらい利用しているかを調べた事前調査で、「あまり利用しない」「ほとんど利用しない」とする子どもが学級の半数近くいることが明らかになった。さらに、主な移動手段として自家用車をあげた子どもが学級の8割以上いた。

保護者対象のアンケートではなく、児童本人にたずねたこと、利用目的など詳細についてたずねていないとはいえ、この結果は、「過度なクルマ利用によるバスや鉄道の廃止」などの公共交通が抱える問題と少なからず関連していると考えられる。

そこで、本実践を通して、公共交通の良さに目を向け公共交通を選択できる子どもを育成することを目指す。また、自分の行動が未来につながるという時間軸を意識させる。そのために、次のような手立てを取る。

- ・ 日常の移動手段、交通行動について振り返る「交通日記」を書く。
- ・ 「公共交通」を身近な問題としてとらえられるように、具体的なバス路線を取り上げる。公共交通の役割に目を向けられるよう、税金で維持されているような路線を取り上げる。
- ・ 身近な事例について考えた後、札幌市全体に視野を広げる。
- ・ 過度なクルマの利用を控え、公共交通を利用することが、将来にわたって公共交通を維持することにつながることに気付くよう、効果的な資料を活用する。
- ・ 家族にも交通行動について考えることを促すような提案を子どもが考え、家族に伝える。

###### ③資料の活用

「札幌らしい交通環境学習フォーラム」で使用したテキストと、児童の実態を考慮し、ねらいに迫るための資料を教師が作成し、配付して使用する。

図 2-18 河嶋教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・身近な公共交通機関であるバスの歴史や現状について、興味をもち、自己課題を設定することができる。
- ・聞き取り調査などの活動を通して、自己課題の解決に必要な情報を収集することができる。
- ・バスの良さ、公共交通の良さや今後のあり方について考えを深めることができる。
- ・バスの良さや今後のあり方について、家族への提案にまとめ、発信することができる。

### ●単元の構成

札幌市の公共交通の歴史【3時間】	子どもの主な活動	公共交通のはたらきと問題点【2時間】	子どもの主な活動
	<p>「お出かけ」について、考えよう</p> <p>&lt;目的&gt;</p> <p>仕事、買い物、遊び…</p> <p>自宅 → 行き先</p> <p>&lt;手段&gt;</p> <p>自動車 徒歩 バス</p> <p>地下鉄 JR 自転車</p> <p>いろいろな移動の仕方があるね。</p> <p>札幌の公共交通は、いつ頃、どのように始まったの？</p> <p>過去 → 現在</p> <p>1909 馬車鉄道    1918 路面電車    1930 市営バス    1971 地下鉄</p> <p>移動手段が増えて、便利な暮らしになってきたんだね。</p>		<p>自動車 国道12号 バス</p> <p>バスがあるのに、自動車を使っているよ</p> <p>バスは、必要なの？</p> <p>必要だよ！だってね…</p> <p>自家用車を持っていない家庭 歩いての移動は大変。 天候が悪い日に 大切な移動手段</p> <p>自家用車を持っている家庭 けがをしたとき お酒を飲んだ帰りに もしもの時に</p> <p>自家用車がある家庭にも、ない家庭にも、バスは必要なんだね。</p> <p>&lt;本時&gt;</p> <p>バス路線「白24」は、乗客が少ない… 昨年度は補助金580万円！</p> <p>札幌市全体では、6億4千万円の税金をかけて、路線を残している！</p> <p>バス路線を残す意味って？</p> <p>いつでも</p> <p>だれでも バスは、札幌市民の大切な「足」！</p> <p>このままだと、路線が減っていく…</p> <p>いつまでも 自分でできることは…？</p> <p>札幌市民にとって、大切な「足」だから、路線を維持しているんだね。</p>
	家族の交通行動調べ【2時間】		<p>お家の人、何のために、どのように「お出かけ」しているのかな。</p> <p>4の2 「お出かけ」調べ お家の人に聞こう！ ①だれが ②何のために ③どこへ ④どのように ⑤どのくらいの時間で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車を使って移動することが多いね。</li> <li>・いろいろな移動手段を使っているよ。</li> <li>・公共交通が意外と使われていないぞ。</li> </ul> <p>目的や行き先によって、さまざまな移動手段が利用されているんだね。</p>
	<p>お家の人に「提案」しよう！</p> <p>「お出かけ」調べの結果を生かして</p> <p>公共交通の「今」を伝えて</p> <p>具体的な行動について考えて</p> <p>未来の公共交通を守るのは、私たち。 今日から行動を始めよう！</p>		

図 2-19 河嶋教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

・バスの乗車人数がどんどん減り、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考えることができる。

#### ●展開

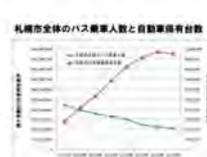
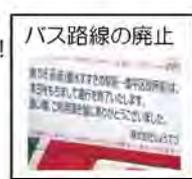
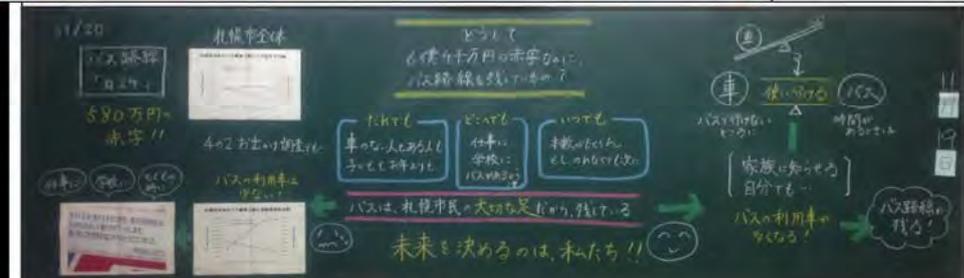
学 習 展 開	教師のかかわり
<p>(前時まで) 家族の交通行動について調べ、家族の移動手段が、目的や行き先によって違っていること、バス路線があることが、自家用車を持たない者にとっても、持つ者にとっても大切であることを理解している。</p>	
<p><b>バス路線「白24」</b> 「白24」には、去年、580万円の補助金を出している！ バスが走れば走るほど、損をする！</p>  <p>札幌市全体でも、似たようなところがたくさんあるね。 <b>去年は、補助金6億4000万円！</b></p> <p><b>どうして、6億4000万円も損をしているのに、バス路線を残しているのだろう。</b></p>	<p>○バス路線「白24」が必要性を振り返った後、昨年度580万円の補助金を出している事実を提示し、その意味を問う。</p> <p>○札幌市全体のデータを示すことで、身近なことが札幌市全体の問題であることに気付かせ、問題意識を高める。</p> <p>○子どもの考えを「だれでも」「いつでも」「どこへでも」という視点に分けて引き出す。</p>
<p><b>だれでも</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車を持たない人も</li> <li>・運転できなくなった人も</li> <li>・体が不自由な人も</li> </ul> <p><b>いつでも</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・便数がたくさん</li> <li>・乗り遅れても次の便に</li> <li>・</li> </ul> <p><b>札幌市民の大切な「足」だからこそ</b></p>	<p>○既習の「交通日記」とつなげ、身近な問題として考えられるようにする。</p>
<p><b>どこへでも</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事にも</li> <li>・学校にも</li> <li>・札幌市のほとんどのところへ行ける</li> </ul> 	<p>○子どもの見方や考え方を確かにするために、必要な資料を提示したり、切り返しの発問をしたりする。</p>
<p>このままだと、路線が減っていってしまう！ どうしたらよいのかな。</p> <p><b>重とバスを使い分ける！</b> お家の人に知らせる！ 自分でも</p> <p>お出かけ調べでは… バスの利用者が少ない！</p> <p><b>バス路線の廃止</b></p> 	<p>○バス乗車人数と自動車保有台数とお出かけ調べの結果を関連づけ、未来の公共交通のために、自分自身がどうしたらよいか考えるようにする。</p>
<p><b>札幌市は、市民みんなが、いつでも、どこへでも行けるように、バス路線を残しているんだね。未来に残せるかどうかは、自分たちの行動次第だね。</b></p>	
<p><b>板書計画</b></p> 	

図 2-20 河嶋教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料

##### ●本時で活用する資料

バス乗車人数とバス走行キロ数、  
自動車保有台数のグラフ

バス路線廃止に  
かかわる写真

図 2-21 河嶋教諭の指導案③

### 2-6-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・ 経年で赤字が続くことを見せるのが良いのではないか。
- ・ 生活経験の乏しい子だと、バスの必要性については答えられないので、バスに親しむことから始めるのはいいのではないか。
- ・ 3～4年生は話し合い活動は難しいと感じる。乗車体験は必須だと思う。
- ・ 研究授業を重ねるうちに、公共交通を利用しようという気持ちが強くなりすぎたのではないか。公共交通を利用しようではなく、移動を選択する良さがある、そしてこのままだと選択肢がなくなるということを伝えることが重要ではないか。授業者にもその構図を押えないといけないかと思う。
- ・ グラフなどの提示した資料がよかったので、4年生の授業として十分組み立てられると感じた。
- ・ 昨年学習した公共交通の授業の積み上げが見られたら良かったと感じた。
- ・ 公共交通の授業は、社会を良くする、札幌市がより住みやすい街になるようなお手伝いをするという参画意識を無くさないためのものだと考える。
- ・ バスを残すことで、札幌市では小さい子どもからお年寄りまで、いろいろな人が住める街になるなど、公共交通を軸とした見方や考え方ができることが重要。
- ・ 赤字額等の数字を子どもたちが身近に感じられる数字に置き換えると伝わりやすいのではないか。
- ・ 社会科の授業で公共交通を取り上げることは、いろいろな立場の人でものを見る、札幌市全体で見た時はどうなのかなど、いろいろな立場や視野の範囲を広げて物を見る力を養うことだと思う。

## 2-7 札幌市立屯田小学校3年生における交通環境学習の実践

### 2-7-1 交通環境学習実践概要 授業者：斉藤健一教諭

- 実施日：平成 25 年 11 月 26 日(火) 6校時
- 実施校：札幌市立屯田小学校
- 対象学年：3年生(1クラス)
- 授業者：斉藤 健一 教諭
- 教科：社会科
- 単元：「昔の道具とくらし」



写真 2-6 屯田小学校の交通環境学習の実施の様子

## 2-7-2 指導案

斉藤健一教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 3年生 [社会\_昔の道具とくらし] (札幌市立屯田小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

実施校	札幌市立屯田小学校	実施日	2013年11月26日（火） 6校時
科目/単元名	社会「昔の道具とくらし」[9時間扱い 本時 7/9]	指導者	斉藤 健一

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 社会編]

●目標

(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てようとする。

●内容

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

- ◆古くから残る暮らしにかかわる道具を使っていたころの人々の暮らしの様子を取り上げ、地域の人々の生活が変わってきたことを具体的に調べる。
- ◆現在の自分たちの生活は祖先の努力の上に成り立っているという歴史的背景に関心をもつようにする。

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

学級の子もたちに行った聞き取り調査では、日常的に公共交通を利用している家庭は1割に満たない。バス、市電、地下鉄の公共交通機関を利用して市街地の99%にアクセス可能な札幌市にありながら、屯田の地域は、自動車依存の高い地域と言える。

したがって、子どもたちは公共交通機関を利用した経験に乏しい。バスや地下鉄のよさを感じたり、公共交通機関の社会的役割や価値に気付いたりする機会もほとんどない。そのような環境に置かれている子どもたちであるからこそ、MM教育を行う価値がある。この学習を通して、将来的に、子ども自身が自動車に過度に依存するのではなく、自動車と公共交通をかしこく使い分け、自分の移動（モビリティ）を社会的に望ましい方向へ自発的にシフトしていく力（素地）を養っていきたい。

そのために、本単元では、札幌市営地下鉄を取り上げる。全国的に見ても公営地下鉄をもっているのは、9都市しかなく、貴重なインフラである。昔の人々の生活の様子を学習する単元に組み込むことで、地下鉄の誕生によって、人々の生活がどのように変わったのか、またそれがどのように受け継がれ今に残っているのか、札幌市の地下鉄の特徴と人々の生活の変遷を学びながら、マイルール意識も高めていきたい。

###### ③資料の活用

札幌らしい交通環境学習フォーラムで使用した資料を活用する。3・4年生でも理解しやすいように作られているので、学習の中心資料となり得る。

子どもたちにとって、初めての歴史的な学習内容であることを考慮し、当時のまちの様子や、人々の生活の様子のイメージがつかめるように、具体的な写真や映像なども活用するようにする。

図 2-22 斉藤教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・学校や家庭、地域にある昔の道具に関心を持ち、意欲的に調べている。
- ・地域の人の生活の今昔の違いや変化、人々の生活の知恵を考え、適切に表現している。
- ・年表にまとめたり、年表を活用したりして、時間の経緯に沿った道具や暮らしの移り変わりを整理している。
- ・古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を理解している。

### ●単元の構成

	子どもの主な活動	子どもの主な活動																
学校の資料室調べと聞き取り調査【1時間】	<p>昔の道具にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <p>学校のふるさとルームを調べてみよう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> <p><b>農具</b></p> <p>様々な農具が展示</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffe0e0;"> <p><b>生活用具</b></p> <p>言のくらしも再現</p> </div> </div> <p>何に使ったのが調べてみたいな。</p> <p>今では使われなくなった道具がたくさんあるね。</p> <p>おうちの人にも聞いてみよう。</p> <p>昔の道具から、そのころのくらしの様子がわかりそうだね。</p>	<p>交通の発達によって、人々の生活はどのように変わっていったのだろうか。</p> <p>●馬車鉄道から市電へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100年前には馬車鉄道が走っていた</li> <li>・石を運ぶ目的でつくられた</li> <li>・1912年からは乗客ものせる</li> </ul> <p><b>札幌で最初の公共交通が誕生！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1918年に札幌電気軌道により路面電車が開業</li> <li>・1927年札幌市が札幌電気軌道を買い取り、「札幌市電」が誕生</li> </ul> <p><b>市電とバスが市民の足に！</b></p> <p>移動が便利に！</p> <p>●地下鉄の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1960年代に入り交通渋滞が大問題に</li> <li>・通勤ラッシュ100mも乗客の列が市電乗り場に</li> </ul> <p><b>道路も公共交通も、市民の移動が苦難に</b></p> <p><b>全国で4番目となる地下鉄の誕生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1971年オリンピック前年に南北線開通</li> <li>・ゴムタイヤ、シェルターなど札幌ならではの特長も</li> </ul> <p><b>交通機関の発達によって、移動がしやすくなり、くらしやすいまちになったね。</b></p>																
	昔の道具と人々のくらし【3時間】		<p>道具の変化によって、人々の生活はどのように変わっていったのだろうか。</p> <p><b>【暖房のための道具】</b></p> <p>まきストーブ → 石炭ストーブ → 灯油ストーブ</p> <p>火をつける準備や後片付けが大変そうだね。</p> <p>お湯をわかすこともできただんだね。</p> <p>灯油ストーブになって、楽に使えるようになったね！</p> <p><b>【洗濯のための道具】</b></p> <p>洗濯板 → ローラー式洗濯機 → 二層式洗濯機</p> <p>一枚一枚洗うのは大変そう。</p> <p>洗濯が力仕事だったんだ！</p> <p>二層式になって便利になった！</p> <p><b>【食事のための道具】</b></p> <p>おかま → 七輪 → 電気かま</p> <p>火加減を整えるのが大変そう。</p> <p>後始末も大変そうだね。</p> <p>ボタン一つで便利になった！</p> <p>道具が変化することで、人々の生活は楽で便利に変わっていったんだね。</p>	<p>年表で表すへぐりのうつりかわり【2時間】</p> <p>道具やくらしのうつり変わりを年表にまとめると、どのようなことがわかるだろう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>いつ</th> <th>70年ほど前</th> <th>50年ほど前</th> <th>…</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道具</td> <td>薪ストーブ 洗濯板</td> <td>一槽式洗濯機 自動式電気釜</td> <td></td> </tr> <tr> <td>くらし</td> <td>火をつけるのも洗濯するのも、時間がかかる</td> <td>機械ができて、少しずつ家事が楽になってきた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通</td> <td>市電が市民の足になっていた</td> <td>車が増えて、渋滞が大きな問題に…</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>年表にまとめると、道具やくらしの変化がよくわかるね。</p>	いつ	70年ほど前	50年ほど前	…	道具	薪ストーブ 洗濯板	一槽式洗濯機 自動式電気釜		くらし	火をつけるのも洗濯するのも、時間がかかる	機械ができて、少しずつ家事が楽になってきた		交通	市電が市民の足になっていた
いつ	70年ほど前	50年ほど前	…															
道具	薪ストーブ 洗濯板	一槽式洗濯機 自動式電気釜																
くらし	火をつけるのも洗濯するのも、時間がかかる	機械ができて、少しずつ家事が楽になってきた																
交通	市電が市民の足になっていた	車が増えて、渋滞が大きな問題に…																

図 2-23 齊藤教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

・地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、札幌市営地下鉄の価値に気づき、40年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを適切に表現することができる。(思考・判断・表現)

#### ●展開

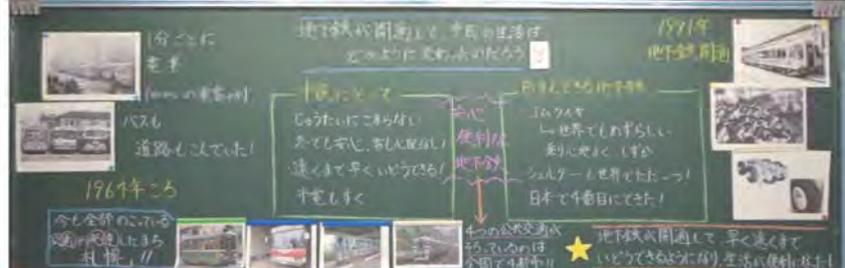
学習展開	教師のかかわり
<p>(前時まで) 1960年代に入り交通渋滞が大問題になったこと、市民の足であった市電は、通勤ラッシュ時に100mもの乗客の列ができて大混雑していた様子を学んでいる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">1分ごとに電車が来て、電車も大渋滞していたよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">市電やバスだけでは、市民を運べなくなってきたよ。</div> <div style="text-align: center;">  <p>人口100万人の都市に全国で4番目となる地下鉄が誕生</p> </div> <div style="width: 15%;">1971年、オリンピックの前年に南北線北24条～真駒内開通！！</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時をふりかえりながら、1960年代の状況を確認する。</li> <li>・地下鉄が開通した状況や様子を教える。</li> <li>・地下鉄と市民生活とのかかわりを考えるようにする。</li> </ul>
<p style="text-align: center; background-color: red; color: white; padding: 5px;">地下鉄が開通したことによって、市民の生活はどのように変わったのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>札幌市民にとって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞に困らず移動できる。</li> <li>・冬でも安心。雪も心配なし。</li> <li>・遠くまで早く移動できる。</li> <li>・東西線ができ益々便利に。</li> <li>・車を使わなくてもいい。</li> </ul> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>雪の心配もなく、早く遠くまで移動ができる地下鉄</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>市民が自慢できる地下鉄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車輪ではなくゴムタイヤ → 「札幌式」と呼ばれ、世界にも知られる。</li> <li>・シェルターも世界唯一。</li> <li>・乗り心地も最高！</li> </ul> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>市民の暮らしが豊かに</b>      <b>世界にも誇れる乗り物</b></p> <p style="text-align: center;">地下鉄の開通によって、札幌市内の公共交通機関は…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>今も全部残っているなあ。</p> <p>地下鉄</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>バス</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>市電</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>JR</p>  <p>乗り物がたくさんあるまちなんだ…</p> </div> </div> <p style="text-align: center; background-color: yellow; padding: 5px;">4つの公共交通機関がそろっている都市は札幌・東京・京都・大阪の4都市しかない！！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">札幌市民 190万人が利用できる大事な乗り物になっているんだ！</div> <div style="width: 20%;">行く場所によって使い分けるととっても便利だね！</div> <div style="width: 20%;">これからも続くようにみんなで協力することが大切だね！</div> <div style="width: 20%;">札幌市は世界にも自慢できるまちなんだね！</div> </div> <p style="text-align: center; background-color: red; color: white; padding: 5px;">地下鉄が開通して、市民の生活が豊かになり、公共交通機関がそろったまちになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民生活と地下鉄のよさを分類し黒板にまとめる。</li> <li>・札幌で走る公共交通機関を子どもと確認する。</li> <li>・4つの交通機関がそろった札幌の価値を考えることで、マイルール意識を高める。</li> </ul>
<p><b>板書計画</b></p> 	

図 2-24 齊藤教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

札幌市内  
公共交通路線図

公共交通  
テキスト

交通資料館  
資料

図 2-25 齊藤教諭の指導案④

### 2-7-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・地下鉄を題材としたことで、授業の終わりには子どもたちが他の公共交通機関にも関心が向いた。
- ・単元の中で、昔の道具の変遷から札幌の交通の変遷を学んだことで、1学期に学習したまちの様子の内容と繋がったことでまちの発展も学ぶことができたことが大変良かった。
- ・時間軸での説明だったので、新幹線の話を出しても良かったと思う。
- ・市民の生活が変わったことを学ぶ授業だったので、公共交通に地下鉄が増えたことで、札幌市は冬に強い街になった。
- ・市民の生活がどう変わったのかを裏付けるものとして、当時の人の声などを紹介できるとより良いものとなる。副読本に盛り込むと良い。
- ・公共交通機関が充実していくにつれ、札幌市の人口が増加し全国での順位も上がるなどの見せ方は面白い。
- ・本授業は、大変良い内容だったので札幌市のスタンダードな授業として十分なり得る。

## 2-8 札幌市立手稲宮丘小学校 6年生における交通環境学習の実践

### 2-8-1 交通環境学習実践概要 授業者：牧野宜英教諭

- 実施日：平成 25 年 12 月 4 日(水) 6校時
- 実施校：札幌市立手稲宮丘小学校
- 対象学年：6年生(1クラス)
- 授業者：牧野 宜英 教諭
- 教科：社会科
- 単元：「暮らしの中の政治～身近な暮らしと政治～」



写真 2-7 手稲宮丘小学校の交通環境学習の実践の様子

## 2-8-2 指導案

牧野宜英教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 6年生【社会\_暮らしの中の政治】(札幌市立手稲宮丘小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

---

#### ■実施例

<b>実施校</b>	札幌市立手稲宮丘小学校	<b>実施日</b>	2013年12月4日(水) 6校時
<b>科目 / 単元名</b>	社会「暮らしの中の政治～身近な暮らしと政治～」 <small>[5時間扱い 本時5/5]</small>	<b>指導者</b>	牧野 宜英

---

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ  
〔小学校学習指導要領解説 社会編〕

●目標と内容(2)

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

●内容の取扱い(2)

イ 国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、国民の司法参加、租税の役割などについても扱うようにすること。

「租税の役割」については、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。(中略)国民の義務については、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。

②モビリティ・マネジメント教育の視点から

バスや鉄道などの公共交通機関は、車を運転できない子どもや高齢者を始め、通勤通学に使う大人や高校生・大学生など札幌市民にとって必要不可欠な移動手段である。特に札幌では冬場の積雪時に公共交通機関が大きな役割を果たしている。

重要な役割があるはずの公共交通機関であるが、近年のモータリゼーションの影響で利用客は減少の一途をたどっている。その中でもバス利用者数の減少率は他の公共交通機関と比較しても大きい。税金で赤字を補填することで現在のバス路線を維持している。

これは、大きな問題である。このままの状況では将来的に現在と同じバス路線を維持できないのは明らかである。将来、バスの本数が少なくなっていたり路線が廃止されていたりする可能性がある。困ってから気付くのでは遅いのである。

そこで、利用者が減っている赤字のバス事業に税金を補填している事例を取り上げ、その意味を追求する。子どもは公共交通機関の価値を改めて見出し、バス事業を存続させる意味を実感する。バスという公共交通機関を取り扱うことで、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解することができるのである。

③教科書の活用

本実践は税金について学ぶ1時間である。教科書を活用し、「どのような税金があるのか」「何に使われているのか」を学ぶ。自分の身の回りの多くの場所に税金が使われていることに気づき、自分にも税金が使われていることを知る。すると、社会生活を営む上で税金は欠かせないものであり、国民の義務として納税が大切であることを実感する。

図 2-26 牧野教諭の指導案①

## 2.単元にかかわって

### ●単元の目標

- ・日常生活における政治の働きと役割に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
- ・政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現することができる。
- ・国民生活と地方公共団体や国の政治とのかかわりについて調査したり、基礎的資料を活用して調べたりすることができる。
- ・国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。

### ●単元の構成

身近な制度を知る・学ぶ【1時間】	子どもの主な活動 <b>なぜ世田谷区では新BOPの制度を始めたのだろう</b> 区立小学校全てで実施 区内小学生 80%以上が登録 ー保護者ー ・安心できる ・学校だと安全 ・無料で助かる ・異学年交流 ー地域ー ・元気な子どもたちと触れ合うことができる ・子どもを守る ー世田谷区ー ・子どもたちがのびのびと遊ぶ場 ・出会い、交流する機関をつくる <b>【子どもの遊び・交流・生活が一層豊かに広がることを願っている】</b>	住民と政治のつながりを知る・学ぶ【1時間】	子どもの主な活動 <b>議員や議会はどのようなはたらきをしているのだろう</b> ●計画案を審議 ●予算案を審議 ・ゴミ処理・防災・交通・福祉・除雪 「それは本当に必要なの？」 「それは本当に安全なの？」 <b>最終決定をする責任がある！</b> <b>【議会は、住民の生活にかかわることを話し合い、判断して議決している。】</b>
	住民の願いが実現する仕組みや、安心して暮らせ卵社会のあり方を学ぶ【2時間】	<b>新BOPはどのようにして実現したのだろう</b> 住民の要望 ↓ 区役所 ・計画案をつくる ・予算案をつくる 区議会 ・計画案を審議 ・予算案を審議 ↓ 計画の決定 <b>【住民の願いから、計画案や予算案ができ、議会で審議され実現する】</b> 住民の積極的な参加が大切 ●国分寺崖線 ・区と区民が環境を守る取組を一緒に進めている。 ・子どもたちも里山の管理をしている。	税金のはたらきとわたしたちの暮らしとの関係を知る・学ぶ【1時間】

図 2-27 牧野教諭の指導案②

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

・札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気づき、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていることについて考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)

#### ●展開

学習展開	教師のかかわり
<p>(前時まで) 教科書の東京都世田谷区の事例をもとに、「住民の願いをきき、誰もが暮らしやすい社会をつくるのが政治の大切な仕事であること」、「誰もが暮らしやすい社会をつくるには住民の政治参加が必要であること」を学んでいる。</p> <p>○国や地方公共団体の仕事の費用はどこから出ているのだろう</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">             ・所得税 ・法人税 ・消費税 ・住民税 ・固定資産税         </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">             ・国に ・都道府県に ・市区町村に         </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             バスの利用者数の減少のグラフ               平成24年度 約6.5億円         </div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">利用者が減ってきているバス事業に札幌市が税金を使うのはどうしてだろう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>札幌市にとって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが利用できる移動手段を確保</li> <li>・公共交通を使ってもらい環境を守る</li> <li>・都市を活性化</li> <li>・みんなが暮らしやすいまちづくり</li> </ul> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>住民にとって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に通えない</li> <li>・通勤に困る</li> <li>・車がない人は移動できない</li> <li>・地下鉄駅からタクシーを利用するしかなくなる</li> </ul> </div> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">納税</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">市民の暮らしを守る</p> <p>○その他にはどんなところに税金が使われているのかな</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 60%;"> <p><b>警察・消防</b> → 安全で健康な暮らしを守る</p> <p><b>文化センター</b> → 文化的な生活を送る</p> <p><b>学校</b> → 平等に教育を受けられるようにする</p> </div> <div style="width: 35%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     小学生一人にも、一年間で約100万円の税金が使われている                 </div> </div> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">みんながどこかで同じように恩恵を受けている</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">                 税金が私たちの暮らしを支えてくれている。納税は大切なんだね。             </div>	<p>・教科書を使い税金の集められ方や使われ方を確認する。</p> <p>・札幌市の税金の使い方の事例としてバス事業を取り上げ、利用者が減ってきているバスに毎年億円の税金を使っている事実から問いを生む。</p> <p>・利用者が減ってきているけれどもバスが無くなると困る人が多くいることや困る中には自分も含まれていることから税金の役割を浮き彫りにする。</p> <p>・身の回りで見られている税金について考えることで税金の大切さを実感させる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; font-weight: bold;">板書計画</p>	

図 2-28 牧野教諭の指導案③

#### 4.本時で活用する資料と本時の様子

##### ●本時で活用する資料

バスの乗車人数と  
走行キロ数

くらしを支える税  
～札幌市版～

### 2-8-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・授業の流れとして、単元5時間の中に組み込んだことで大変難しかったと思う。しかし、税金の種類についてきちんと子どもたちに知識を獲得させてから事例を出し、それについて考えさせ、その後小グループに分かれて言葉で表現させていたのは、ベストな授業だったのではないかと思う。
- ・もし税金がなかったら？というような問いかけにすることで、税金の重要性を認識することができるのではないかと感じた。
- ・教科書で説明されている新BOP制度に、札幌市の政策の意図を置き換えて考えさせたかった。
- ・受益者負担の部分と、受益者負担なしで使われる税金と区別して扱った方が良いのではないかと思うが、6年生では理解が難しいので今回の授業内容で良かったと思う。
- ・今までは、公共交通の利用促進にシフトしすぎていたのが課題だったが、今回の授業では、バスを切り口にして税金を学ぶことができおり、社会科の単元としてはよかったのではないか。
- ・今回の授業だと、公共交通色が薄れて、一般の先生方もやりやすいのではないかと感じた。
- ・昨年の授業では、児童の家族がクルマから公共交通へと行動変容していた。

## 2-9 札幌市立三角山小学校 1年生における交通環境学習の実践

### 2-9-1 交通環境学習実践概要 授業者：内藤広大教諭

- 実施日：平成 26 年2月5日(水) 5校時
- 実施校：札幌市立三角山小学校
- 対象学年：1年生(1ラス)
- 授業者：内藤 広大 教諭
- 教科：道徳
- 単元：「でんしゃのトリー」



写真 2-8 三角山小学校の交通環境学習の実施の様子

## 2-9-2 指導案

内藤広大教諭が作成した指導案を以下に示す。

### 1年生 [道徳\_でんしゃのトリー] (札幌市立三角山小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM」教育に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

#### ■ 実施例

実施校 札幌市立三角山小学校 実施日 2014年2月5日（水） 5校時

科目/単元名 道徳「でんしゃのトリー」[1時間扱い] 指導者 内藤 広大

#### [指導計画]

##### 1.教材にかかわって

###### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 道徳編]

###### ●第2章 内容

〔第1学年及び第2学年〕

2 主として他の人のかかわりに関すること。

(4) 日ごろお世話になっている人々に感謝する。

この段階においては、日常の指導などにおいて、身近で日ごろお世話になっている人々の存在に気づき、それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表す指導が求められる。その際、その人々が自分に寄せてくれた善意について考え、そのときに自分が感じた感謝の念について改めて考えることができるようにすることが大切である。

###### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

本校の校区には、JRや地下鉄の駅はない。バス路線はあるが学校のから少し離れた大きな道路まで行かなくてはならない。子どもたちからは、家族と出かけるときはほとんど自家用車やタクシーを利用しているという話をよく聞く。これらのことから、三角山地域において、バスや地下鉄などの公共交通機関が自分たちの身近なものであると考える子どもは少ないといえる。

1年生で生活経験の浅い子どもたちには、今回の授業を通して私たちのまちには、様々な公共交通機関があって、それらは誰でも利用できるということに気付かせたい。まずどの子も公共交通について「知る」という機会を保障することが、低学年の子どもたちにおいては重要である。

また、副読本の読み取りやトリーの乗車体験を通して、公共交通を支える整備員の存在も学習する。授業の中で整備員の方々はどのようにして毎日細かい点検をしているのかを考えることで、整備をしてくれる人々のおかげで私たち利用者の快適性や安全性が守られていることに気付くのである。授業の最後にはお客さんの視点から整備員に手紙を書く活動も取り入れる。今回の学習を通して、子どもたちが公共交通の種類やそれを支える人々の存在に気付くことにより、公共交通に関心を抱き自分も利用してみたいと思えることを期待している。

###### ③副読本の活用

道徳の副読本を読み取ることで電車を整備する人々の存在に気づき、この人々によって私たちの安全が守られていると実感する。

1年生が公共交通の具体的なイメージをもつことができるよう、それぞれの写真資料を教師が作成し、掲示する。

図 2-30 内藤教諭の指導案①

## 2. 本時の目標と学習展開

### ●目標

・トリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すことができる。

### ●展開

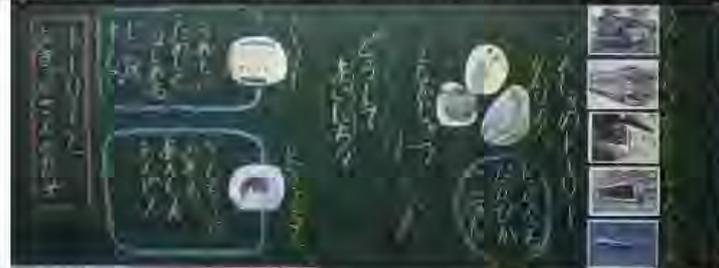
学習展開	教師のかかわり
<p>みんなは普段、どんな乗り物に乗っているかな</p> <p>家の車      飛行機      バス      電車</p> <p>いろいろな乗り物があるよ</p> <p>○でんしゃのトリーを読む トリーを点検したり、きれいにしたりする人がいるよ</p> <p>・しらべる ・びかびかに ・とりかえる</p> <p>点検や掃除をする人</p> <p>よなかじゅうこうじをすることもある</p> <p><b>たいへんだ!</b></p>	<p>○写真を提示し、イメージをもてるようにする。</p> <p>○整備されていないトリーを提示し、副読本の記述に注目できるようにする。</p>
<p>係の人は、どうして毎日点検して、トリーをびかびかにしているの?</p> <p>トリー</p> <p>・うれしい ・楽しい ・気持ちが良い ・もっと走りたい</p> <p>点検や掃除をする人</p> <p>トリー、そしてわたしたちのために</p> <p>わたしたち</p> <p>お客さん</p> <p>・気持ちが良い ・安心 ・安全 ・もっと乗りたい</p> <p>係の人は、トリーやお客さんたちが気持ち良く乗ることができるように毎日整備してくれているんだね。</p> <p>○お客さんになって係の人たちに手紙を書く</p> <p>きれいにしてくれるから、きもちよくのることができています。</p> <p>てんけんをして、あんぜんをまもってくれて、ありがとうございます。</p> <p>みんなの安全を守るために働いている人のことがわかったね。</p>	<p>○係の人が行っていることに線を引かせ、副読本の読み取りを深めていく。</p> <p>○きれいに整備されたトリーに乗る経験をさせ、お客さんの視点からも考えられるようにする。</p> <p>期待させる道徳的価値</p> <p>物語の登場人物になりきって、整備をしてくれる人々に感謝の手紙を書くことができる。</p>
<p>板書計画</p> 	

図 2-31 内藤教諭の指導案②

### 3.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

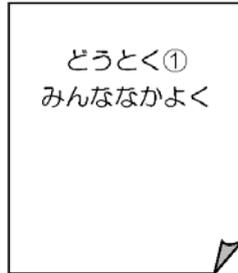
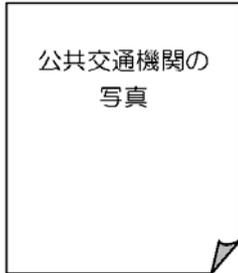


図 2-32 内藤教諭の指導案③

### 2-9-3 意見交換会の実施

研究授業実践後に実施した意見交換会においての主な意見を以下に示す。

- ・係の人の仕事を知り、トリーや私たちの安全性や快適性を守ってくれていることは学習できた。ただ道德なので、「これからはこうしたい」と子どもが考えられる実践だとより良いと思う。
- ・物語の登場人物になりきって係の人に手紙を書いた後、授業の最後には実際の公共交通も同じように整備されていることに触れる。
- ・電車を汚しているのは、私たちという考えから「電車の中でお菓子を食べない」など、利用者の立場から「みんなでつかうものを大切に」という道徳的価値に迫る終末にする。
- ・感謝の手紙の相手を、物語の人物ではなく実際に自分が乗ったことのある乗り物の係の人に書く。1年生なので、どこまで広げることができるか難しいところだが、子どもがより自分ごととして考えられる実践が大切だと思った。
- ・子どもたちは、よく言葉を知っていて、具体的な言葉で感謝の言葉を話していた。
- ・板書が良い。また、目標・ねらいが立っていた。さらに手紙を書く活動がよく、今後の発展を感じる。
- ・授業に変化やテンポを持たせると良かった（挿絵を活用する、ダメ先生を演じる等）。

## 第3章 札幌らしい交通環境学習フォーラムの開催

### 3-1 札幌らしい交通環境学習フォーラムの開催概要

札幌らしい交通環境学習フォーラムの開催概要を以下に示す。本フォーラムでは、4年生及び6年生の公開授業の実施後、この公開授業についての意見交換会を札幌市教育委員会の菅野指導主事の進行のもと実施した。さらに、パネルディスカッションについては、ワーキンググループの座長である札幌市立幌西小学校新保校長がコーディネーターとなり、さらに、検討委員会の委員長である北海道大学大学院高野准教授、また、検討委員会の委員である(株)アドバコム臼井代表取締役のほか、札幌大通まちづくり株式会社服部取締役統括部長、事務局を代表し、札幌市市民まちづくり局総合交通計画部新津公共交通担当部長をパネリストとして、実施した。

参加者は、事前に申し込みのあった72名のほか、山の手南小学校教職員など合計で100名を越える方々に参加をいただいた。

次節以降には、プログラムの各実施内容を掲載するが、公開授業①・②については、前章を参照されたい。

■開催日時：2013年7月4日（木）13：30～17：00

■対象：札幌市内の小中学校教諭・札幌らしい交通環境学習検討委員会構成員・交通事業者

■場所：札幌市立山の手南小学校

■プログラム：

・13：30～14：45 公開授業①（授業者：佐野教諭【4年生】）

『身近なバスと私たちの暮らし』

・14：20～15：05 公開授業②（授業者：栗原教諭【6年生】）

『暮らしの中の政治～市電から札幌市の政治がみえる～』

・15：20～16：00 公開授業 意見交換会

「交通環境学習の方向性～環境意識や公共の精神の醸成を目的として～」

[進行] 札幌市教育委員会菅野指導主事

[授業者] 佐野教諭・栗原教諭

・16：10～17：00 パネルディスカッション

「札幌らしい交通環境学習～学習教材としての『交通』とは～」

[コーディネーター] 新保 元康氏（札幌市立幌西小学校 校長）

[パネリスト] 高野 伸栄氏（北海道大学大学院工学院 准教授）

臼井 純信氏（(株)アドバコム代表取締役）

服部 彰治氏（札幌大通まちづくり株式会社 取締役統括部長）

新津 順一氏（札幌市市民まちづくり局総合交通計画部公共交通担当部長）

### 3-2 意見交換会の実施

意見交換会については、授業者より、研究授業を実践した感想・ポイントについて述べた後、進行の札幌市教育委員会の菅野指導主事による授業評価、参加者との意見交換が実施された。

#### ■菅野指導主事の評価コメント

##### 【佐野先生】

- ・佐野先生の授業力の高さを感じた。
- ・総合という点でみると、「体験」ということを通じた発言があるとより、「知」だけでなく、「情」が働く良い授業になったと感じる。

##### 【栗原先生】

- ・素晴らしい視点での授業だった。
- ・6年生の政治単元は難しく、だからこそ、地域素材を活用することは重要と感じる。
- ・路面電車に関係する社会的事象をもっと絞って授業ができれば良かった。
- ・租税教育を最初にしっかりやっておいて実施した方が良かった。



写真 3-1 意見交換会の実施の様子

### 3-3 パネルディスカッションの実施

パネルディスカッションについては、コーディネーターの札幌市立幌西小学校新保校長の進行のもと、各パネラーから、「モビリティ・マネジメント」や「札幌市が抱える交通の課題」、「子ども環境情報誌エコチル・ホリデーテリングの紹介」、「札幌のまちづくり」等の説明がされ、「交通」・「教育」を視点に議論を進めた。



写真 3-2 パネルディスカッションの実施の様子

パネリストの発表内容を以下にまとめる。

#### ■高野氏

##### <発表内容>

モビリティ・マネジメントとは、社会的ジレンマの解決策として、心理的に働きかけて交通行動を変える施策のことであり、現在では全国各地で実施されている。

モビリティ・マネジメントの一番効果的な方法としては、TFP（トラベルフィードバックプログラム）がある。また、各市町村では「交通すごろく」というものが作成されており、コマの移動をCO<sub>2</sub>排出量で表すことで、クルマや公共交通の移動について考えることができ、小学校の授業などで活用されている。

##### <意見>

札幌市の人口が減少傾向になってきており、バスの利用者も減少傾向になることを考えると、今後、より郊外のバス交通は重要になってくると思う。また、地方都市ではバス路線が撤退する可能性も高い。そういった現実的な問題を解決するためにも、バスの良さを今から子どもたちに伝えていくことがとても重要であり、子どもたちには交通について考えさせる力をつけていただきたい。

#### ■白井氏

##### <発表内容>

子どもの教育分野での広報、広告、プロモーションを行っており、現在で8年目となる「子ども環境情報誌エコチル」を発行している。子どもとその保護者を対象とした、環境問題に対して興味を持ってもらうための企画を考え、環境施設を回るバスツアーや食育をテーマにした農業体験等を実施している。また、紙面上では、公共交通をテーマにした小学生の作文コンクールの開催や、札幌市交通事業振興公社より委託を受け、ホリデーターリングを実施している。

エコをキーワードに、ユーザー・スポンサー・地域社会を結びつけ、持続可能な循環型のエコライフ推進事業をイメージし事業を行っている。

##### <意見>

交通環境学習を多くの先生に広めるためには、啓発できる媒体が必要だと考える。エコチルの紙面を活用し、交通環境学習を普及できるような記事を掲載するなどして、支援していきたい。

#### ■服部氏

##### <発表内容>

まちづくりのプレイヤーとして、道路空間の有効活用についても取り組んでいる。今年7月には、食事・購買施設を設置し、そこで得た収入を道路環境維持に還元していく制度をつくった。

交通環境の安全・安心についても、街と人とモビリティのいい関係を築きたいと考え、歩行者と自転車の事故防止や自転車の駐輪問題改善のための普及・啓発に取り組んでいる。現在、

札幌市と一緒に公共駐輪場の設置を進めている。また、札幌市内6小学校と連携しながら「札幌マイレールプロジェクト」という取り組みも実施している。

<意見>

札幌市内でも商業施設の郊外化が進んでおり、街中に来て買い物をする人が少なくなってきた。商業的な観点からも街の再生が必要だと感じている。

まち会社としても、いろいろな取り組みを行っており、お互いに情報交換をし合うことで、有意義に広がっていけると思う。具体的なアクションをする場として活用していただければ嬉しい。

## ■新津部長

<発表内容>

札幌市も今後人口減少の時代に突入し、2040年には65歳以上の高齢者が4割以上になると推計されている中、このまま、バスの利用者が減り続ければ、将来的には、地域の足が確保できなくなってしまうのではないかと、という危機感を持っている。こういった背景の中、小学生のうちから、クルマや公共交通の利用に意識を持ってもらいたいと考え、交通環境学習を推進していこうとしている。

<意見>

小学校の授業で、公共交通という身近な題材は社会生活についての理解を図ることができ、また環境からのアプローチも可能だという点からも、魅力や可能性を秘めた題材であると思った。

札幌市としても、今後も交通環境学習に力を入れていきたいと考え、学校や関係者と協力や連携をしながら進めていきたい。

[コーディネーターのまとめ：新保校長]

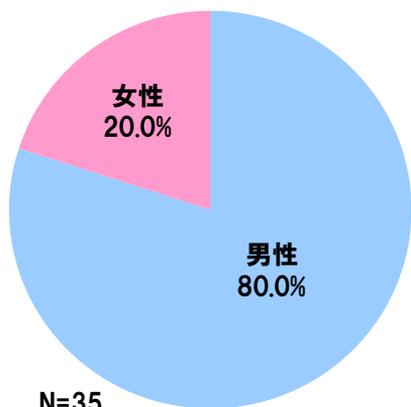
自動車が悪いというわけではないが、過剰な依存を見直していくことが、子どものころから大事ではないか。そして、子どものうちから始める、環境教育や地域環境問題が非常に重要だと感じた。

札幌の公共交通は市内どこへでも行くことができ、公共交通を利用すれば、自分でクルマを運転して事故を起こす心配もないという事実を改めて教員が知り、そして子どもたちに伝えていくことが、札幌の未来のためにすごく大事だと思った。

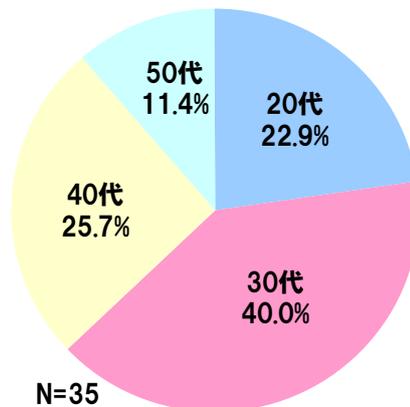
街の賑わいを再生する力を「まちづくり力」と言うなら、学校で教える国語・算数は「生きる力」の基礎的なものを学ぶ教科で、社会科は民主主義の基幹学力を培うもの、そして、総合学習の時間でつける力が「まちづくり力」だと思う。交通環境学習は、この「まちづくり力」を培う学習だと思う。



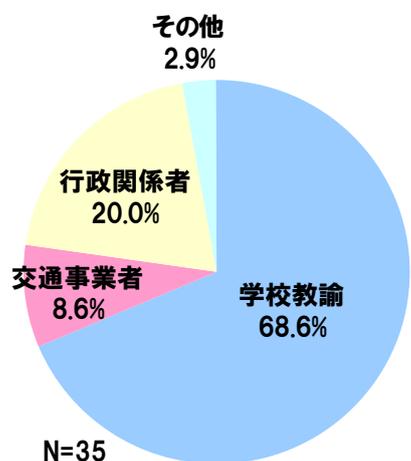
■回答者属性について



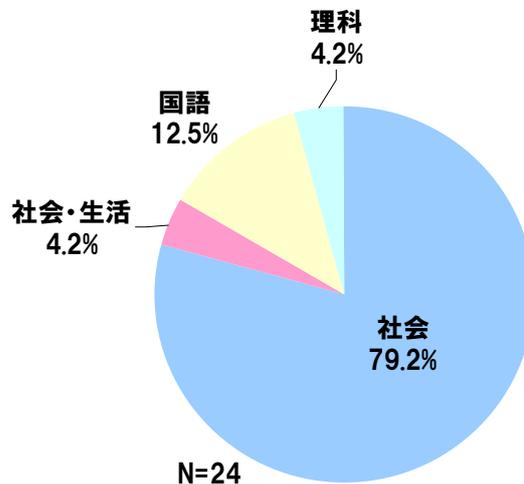
**性別**



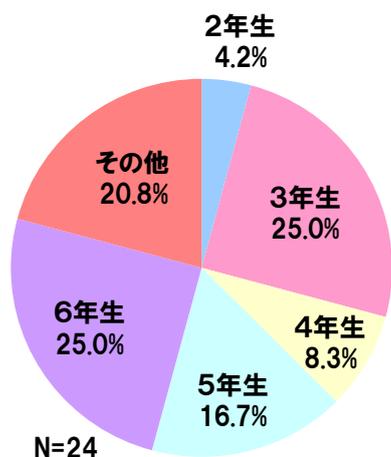
**年齢**



**職業**



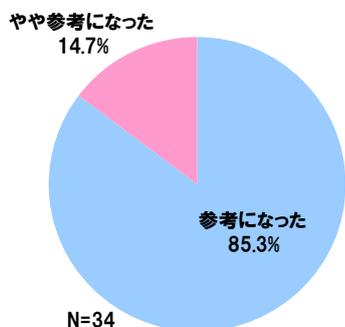
**専門とする教科**



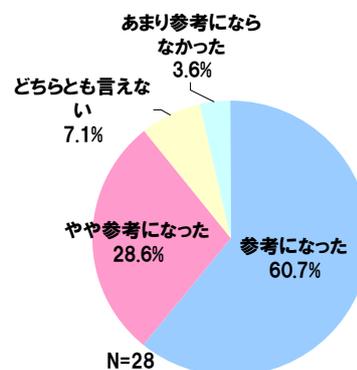
**現在担任の学年**

■本フォーラムについて

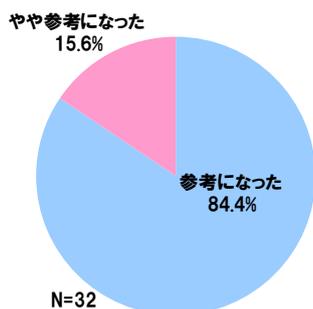
質問2-①  
公開授業の内容はいかがでしたか？



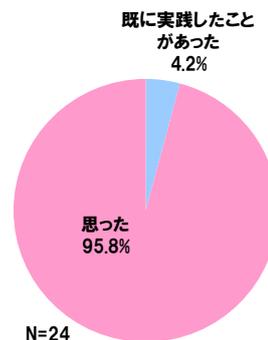
質問2-③  
パネルディスカッションの内容はいかがでしたか？



質問2-②  
意見交換会の内容はいかがでしたか？



質問2-④  
『交通』を題材にした授業を  
実践してみようと思いましたか？



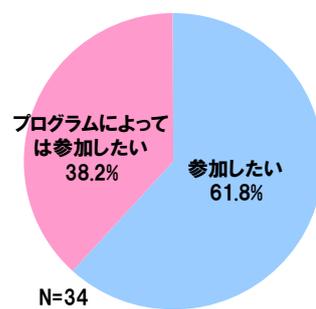
質問2-⑥ データや写真をどのように入手できると良いと思いますか？



その他内容

- ・データで入手できれば、ベストです。
- ・Web資料室のようなもの。
- ・自分で見て、感じて、取材するのがいちばんだと思います。
- ・本時のように、実際に使用するとしたら、パワーポイントを使うと思います。素材として、編集できたら嬉しいです。

質問2-⑦ このようなフォーラムが開催される場合、また参加したいと思いますか？



## 第4章 交通環境学習プラットフォームの運用

### 4-1 交通環境学習プラットフォームの運用

行政間、学校、関係団体間の情報共有及び連携を促進することを目的として、一昨年度より検討委員会及びワーキンググループで検討した「札幌らしい交通環境学習プラットフォーム」の運用を実施した。

本ホームページでは、研究授業の実施内容や指導案、関係団体との連携情報などを掲載した。

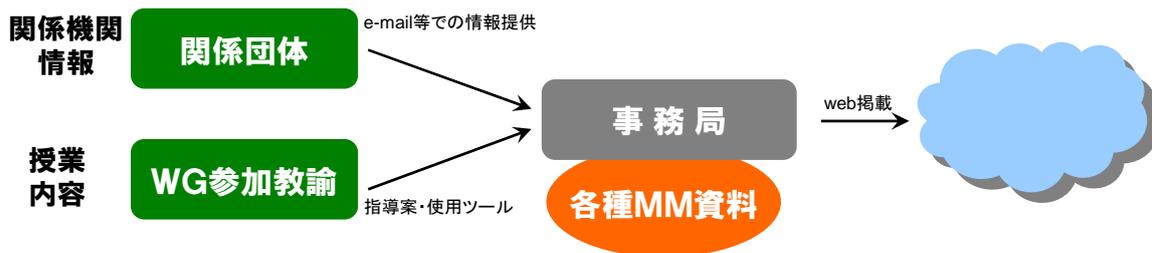


図 4-1 交通環境学習プラットフォームの運用の流れ

### 4-2 Web ページの掲載内容

Web ページでは研究授業の指導案と授業の様子を掲載するほか、関係機関の MM 教育の実施内容や取組、公共交通の普及促進を目的とした広報物、MM 情報などを掲載した。

以下に Web サイトを掲載する。

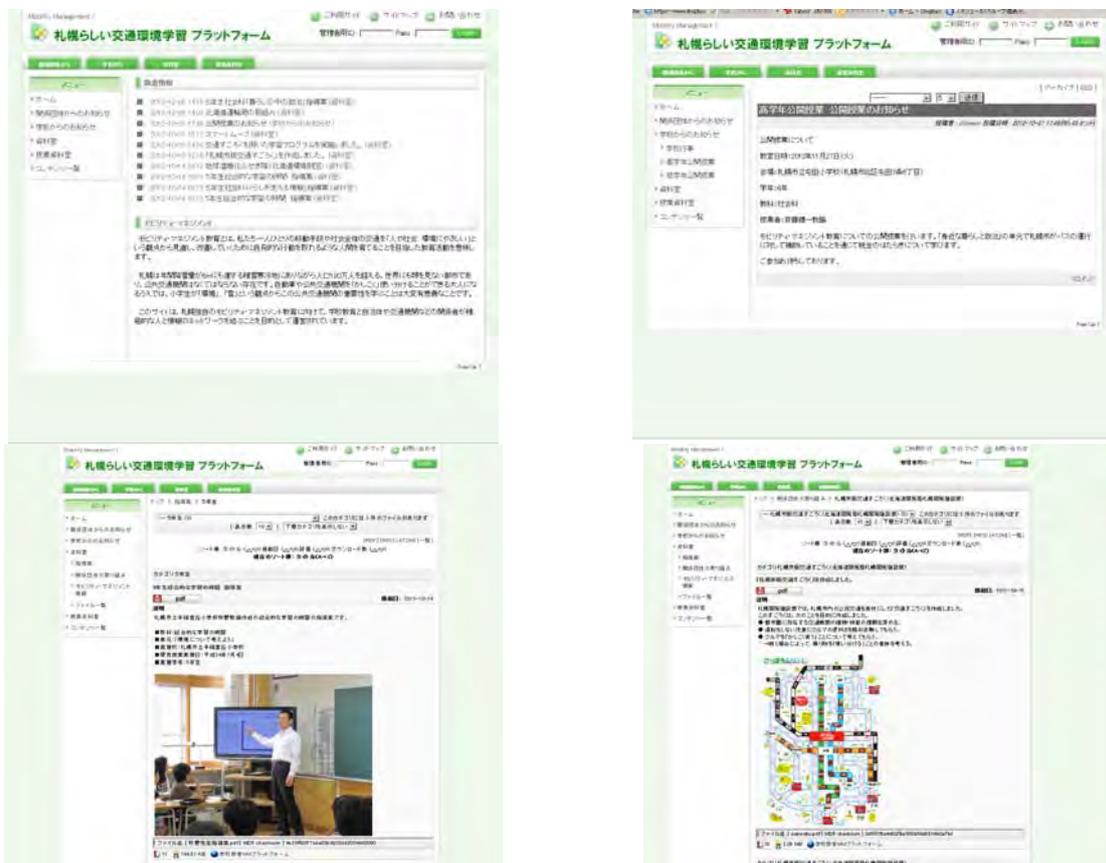


図 4-2 Web ページ①



### 4-3 交通環境学習プラットフォームの今後の運用について

学校教育の現場で活用いただくためには、その web ページのセキュリティの安全性が担保されることが重要であり、さらに、今後の継続的な維持・運用のコスト等を勘案し、これまでの研究授業の実践例やワーキンググループの各教諭に指導案、授業での活用が考えられるデータや写真素材等については、札幌市役所のホームページに掲載することとした。

以下に札幌市役所ホームページでの掲載内容を整理する。

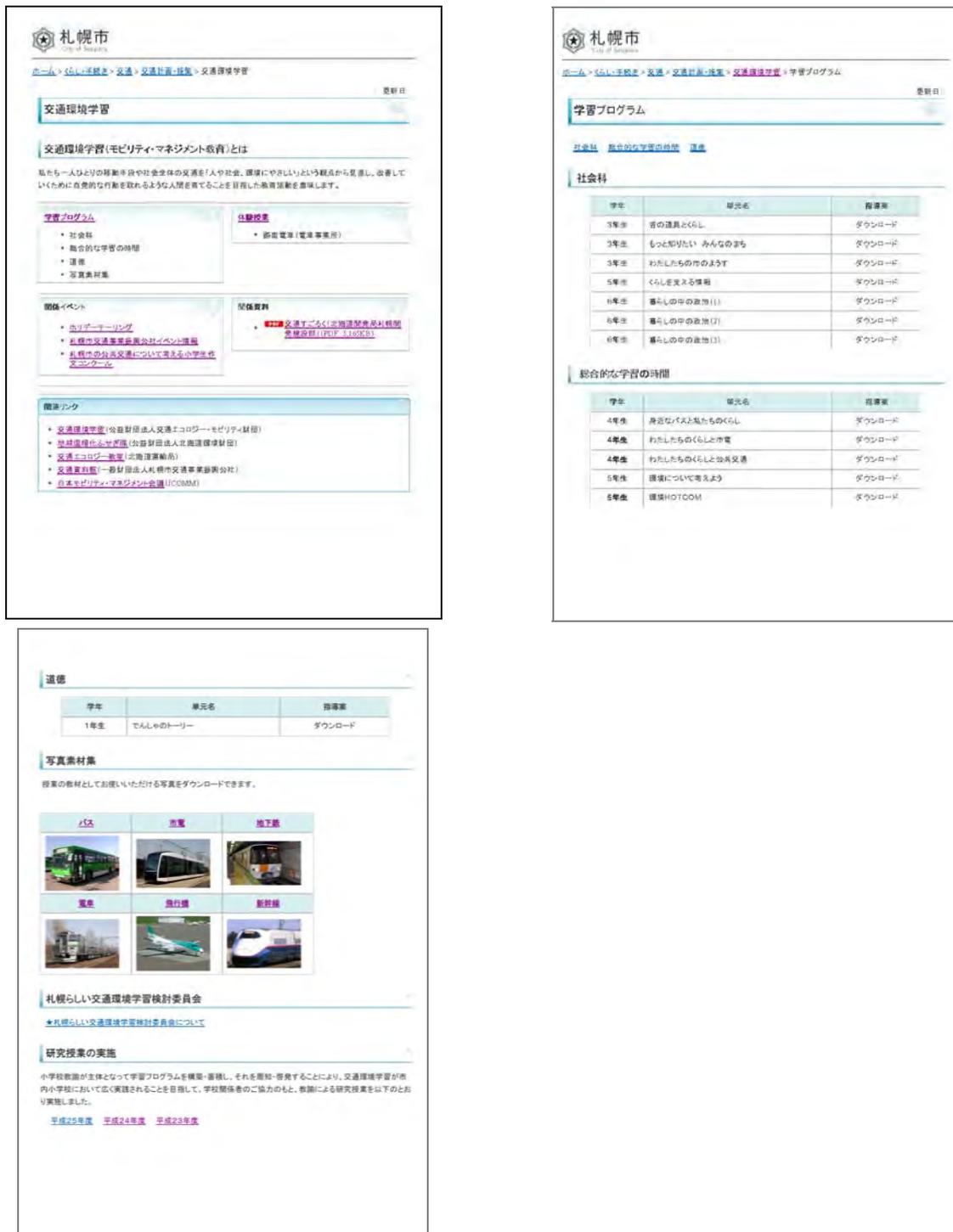


図 4-4 札幌市役所 HP での掲載

## 第5章 検討委員会・ワーキンググループの運営

### 5-1 検討委員会の開催

#### 5-1-1 第1回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要

##### (1) 開催概要

- 会 場：(一社)北海道開発技術センター9F会議室(札幌市中央区南1条東2丁目)
- 日 時：平成25年6月17日(月)13:30～
- 出席者：高野伸栄氏(北海道大学大学院工学院北方圏環境政策工学専攻准教授)  
菅野智広氏(札幌市教育委員会学校教育部指導室指導主事)  
内山 到氏((公財)北海道環境財団協働推進課長)  
川瀬良司氏(「地域と教育」を元気にするフォーラム)  
白井純信氏((株)アドバコム代表取締役)  
小松重之氏(国土交通省北海道運輸局交通環境部環境課長)  
平井篤夫氏(国土交通省北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課長)  
中田雅幸氏(札幌市交通局事業管理部長)

##### 議事次第

- 1 事務局挨拶
- 2 開会
- 3 各委員紹介
- 4 議事
  - (1) 平成25年度のワーキンググループの体制について
  - (2) 平成25年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践について
  - (3) 札幌らしい交通環境学習フォーラムについて
  - (4) 第8回日本モビリティ・マネジメント会議について
  - (5) 本事業のまとめと今後についての方向性
  - (6) ホリデーテーリングについて
  - (7) エコチルとの協働プロジェクト企画について
  - (8) その他
- 5 その他



写真 5-1 会議の様子

## (2) 議事概要

### ●平成 25 年度のワーキンググループの体制について

#### 【決定事項】

- ・ これまで7名のワーキンググループのところ、さらに5名の先生に入っていた。
- ・ 新たに加わった先生にも研究授業を実践してもらい、より充実させていく。

#### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ 昨年度、今後さらに研究授業を増加させる目的として、ワーキンググループを拡大したらどうかということが議論となった。これを受けて、新保校長先生より小学校及び先生方に依頼をし、5月16日に1回目のワーキンググループを実施した。

### ●平成 25 年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践について

#### 【決定事項】

- ・ 1学期には札幌らしい交通環境学習フォーラムの中で、佐野先生・栗原先生に公開授業を行って、研究授業を実践いただくことを想定。
- ・ 2学期には研究授業を10月、11月、12月のなかで実践していただきたいと考えている。10月には4年生担任の河嶋先生と高橋先生、11月には3年生担任の斎藤先生と河原先生、12月においては1年生担任の内藤先生と6年生担任の牧野先生、玉山先生に研究授業を実践していただくことを現段階では想定。
- ・ 7月12日、13日の日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）においても牧野先生に口頭発表をしていただく。
- ・ 7月28日の土木学会主催の「第5回土木と学校教育フォーラム」については新保校長先生にご参加いただく。
- ・ 8月には小学生作文コンクールを予定している。

#### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ 6年生の授業については山の手南小学校の栗原先生に実践していただく予定。「市電」をテーマにした授業案で現在検討を行っている。これは、市電の新型車両、延伸ループ化、サイドリザベーションといった今後の整備を想定してのもの。また、授業は、社会科政治単元ということで授業を行うように準備中。
- ・ 山の手南小学校の佐野先生（4年生担任）に、「札幌市内の公共交通機関のカバー率」といったテーマのもと授業を現在検討してもらっている。

## ●札幌らしい交通環境学習フォーラムについて

### 【決定事項】

- ・ 札幌市内小学校教諭への周知を目的としたフォーラムとする。
- ・ 公開授業の意見交換会は「交通環境学習の方向性～環境意識や公共の精神の醸成を目的として～」というテーマで菅野主導主事に進行をお願いし、佐野先生、栗原先生を交えてのディスカッションを想定。その後「札幌らしい交通環境学習～学習教材としての『交通』とは～」というテーマで、コーディネーターを新保校長先生にお願いし、高野先生、臼井委員、服部部長、新津部長らには、パネリストとして参加していただく。
- ・ チラシを作成して、現在配布を行っている。

### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ なるべく社会科の専門の先生や仲間などに幅広く声をかけ、たくさん来ていただけると良い。
- ・ 時間が50分ということで、各パネリストの方からの話題提供は長くても5分程度が限界。できれば会場とのやりとりにある程度の時間があると良い。
- ・ 意見交換会のイメージとしては、いろんな研究会などで先生方が公開授業をした後に行っているものを想定。ただ、意見交換にしてもパネルディスカッションにしても、まずは各先生方に集まってもらわないとならない。
- ・ CO<sub>2</sub> や渋滞の問題においては、バスに乗り換えることでどうなるのかといった具体例をデータにできるとよい。
- ・ 来られる方に対してMMとは何かといった、基本的な資料も必要ではないか。

## ●第8回日本モビリティ・マネジメント会議について

### 【決定事項】

- ・ 「札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取組み」というタイトルでエントリーし、牧野先生に口頭発表していただく。

### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ 「こども環境情報誌『エコチル』による全市的な児童・保護者を対象としたMMの展開」というタイトルで、昨年度実施した作文コンクールについてもJCOMMの中でも紹介していきたい。
- ・ 小学校の先生方が行うMMというのは全国的にも少数派であり、口頭になったのではないか。

## ●本事業のまとめと今後についての方向性

### 【決定事項】

- ・ 1～6年生まで各学年における MM 教育の実施については、学習プログラムの検討と研究授業の蓄積について毎年段階的に実施している。
- ・ 教諭が主体となった授業の実施については、ワーキンググループの先生に主体になってもらうしかない。
- ・ 札幌市内小学校への MM 教育の広がりについては、改定作業にうまく3年間で築いた研究授業をどう反映させていくかが一番のキーポイントと考えている。

### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ 平成26年度の位置づけとして、このプロジェクトは重要ということで、教諭用の指導案集を作成して、うまくPRしていく。
- ・ 教諭に広めるためには、フォーラムの継続的な開催は必要である。
- ・ Webプラットフォームをうまく活用し進めていく。ただ、現状は利用率も高くないということも踏まえながら、運用方法・体制についても併せて検討していかなければならない。
- ・ 今回のフォーラムがある程度多くの先生方に見てもらえる周知の機会であり、そのあとに Webプラットフォームがどうなるかを踏まえて再度検討していかないといけない。
- ・ 先生方にリアルタイムにメーリングリストなどで情報が流れて、それをアクセスしたくなるような仕掛けがあるといいのではないか。
- ・ 知ってもらうためには継続してやっていくということが大事なキーワードではないか。

## ●エコチルとの協働プロジェクト企画について

### 【決定事項】

- ・ 公共交通の現状や課題を周知するとともに、児童の取り組み（作文）を通じて公共交通について考えるきっかけを創造していく。
- ・ 公共交通作文コンクールのコンテスト実施。実施内容については、公共交通の現状と課題を周知し、児童が公共交通に関連した作文を作成、それを応募していただく。応募の対象は札幌市内の小学生が対象。

### 【検討事項（議論の内容）】

- ・ 子どもたちが実際に感じて、自分の頭で考えながら文章にまとめもらうことが非常に有意義だと考えている。数ももちろん大事だが、質を重視して今年も実施したい。

## ●その他

### 交通局パンフレットについて

#### 【議論の内容】

- ・パンフレットを設置し、市民に手にとって見てもらうだけでは意味がない。どのように使ったらいいのかとっていることを考えている。
- ・補足の写真であったり、データであったり、資料であったり、そういったものを用意し、セットで教材として使ってもらうことで、学校側（先生側）でも生きた教材になるのではないか。

### ホリデーテーリングについて

#### 【議論の内容】

- ・子どもたちに対する交通学習を広めていく上で有効な、効果の見込める取り組みだと思う。こういう場を通じて、多くの子どもたちや父母、学校の先生に知ってもらうことで、検討委員会としての目的の達成にもつながっていくと思う。ぜひ広めていただきたい。
- ・パンフレットの裏にあるような、少しストーリー性を持たせてみると子どもたちの反応もいいのかもかもしれない。

#### 【質問事項】

- ・サタデーテーリングでは、何名くらい参加していたのか。  
→昨年は1年を通じて土曜だけで1万人くらい。事故などはない。
- ・学校から問い合わせがあった場合、実際に使うといったことは可能か。  
→可能。数も対応できる。

## 5-1-2 第2回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要

### (1) 開催概要

■会 場：(一社)北海道開発技術センター4F会議室(札幌市北区北11条西2丁目)

■日 時：平成25年12月26日(木)15:30～

■出席者：高野伸栄氏(北海道大学大学院工学院北方圏環境政策工学専攻准教授)

谷口綾子氏(筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授)

菅野智広氏(札幌市教育委員会学校教育部指導室指導主事)

新保哲夫氏(札幌市立幌西小学校校長)

牧野宜英氏(札幌市立手稲宮丘小学校教諭)

内山 到氏((財)北海道環境財団情報課長)

川瀬良司氏(「地域と教育」を元気にするフォーラム)

臼井純信氏((株)アドバコム代表取締役)

小松重之氏(国土交通省北海道運輸局交通環境部環境課長)

中田雅幸氏(札幌市交通局事業管理部長)

#### 【代理出席】

菅藤善之氏

(国土交通省北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課長補佐)

#### 【オブザーバー】

河嶋一貴氏(札幌市立本通小学校教諭)

斉藤健一氏(札幌市立屯田小学校教諭)

#### 議事次第

##### 1 事務局挨拶

##### 2 開会

##### 3 議事

- (1) 第8回日本モビリティ・マネジメント会議参加報告
- (2) 土木学会「土木と学校教育フォーラム」参加報告
- (3) 札幌市の公共交通について考える小学生作文コンクール実施結果報告
- (4) 札幌らしい交通環境学習フォーラム開催結果報告
- (5) 平成25年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践状況
- (6) 次年度以降の取組み・方向性について
- (7) その他

##### 4 その他



写真 5-2 会議の様子

## (1) 議事概要

### ●第8回日本モビリティ・マネジメント会議参加報告

#### (参加者\_感想)

- ・出前授業ではなく、教諭が授業を実施するスタイルも珍しいことが分かった。
- ・いずれの地域も継続に課題を抱えていることを改めて認識した。
- ・他地域から、エコチルのような媒体があることが札幌にあることが羨ましいとのご意見をたくさんいただいた。

### ●土木学会「土木と学校教育フォーラム」参加報告

#### (参加者\_感想)

- ・小学校と行政の取組の多くは、出前講座形式で実施されているため、札幌らしい交通環境学習がなぜ教諭主体で実施できているのかという点について質問が多数寄せられた。
- ・小学校の教諭と連携できていることに関心を持たれる方が多かった。

### ●札幌市の公共交通について考える小学生作文コンクール実施結果報告

- ・今年度は、バス会社3社（北海道中央バス、ジェイ・アール北海道バス・じょうてつ）に後援していただき、プロジェクトの広がりを感じた。
- ・低学年51作品、高学年132作品、合計で183作品の応募数があった。
- ・それぞれの作品が力作だった。
- ・交通エコロジー・モビリティ財団の支援等で、他地域でもこのような取組をしているのか。  
→他地域ではない。
- ・最優秀賞の作品は、地下鉄の中吊りなどで紹介してもいいのではないかと。

### ●札幌らしい交通環境学習フォーラム開催結果報告

#### (参加者\_感想)

- ・生産的な意見交換会であった。
- ・次につなげるようにしていきたい。
- ・授業の質の高さに驚いた。
- ・小学校で外部へ向けた公開授業を実施したきっかけは？  
→自分本位の授業になってしまうため、外部の人に見てもらい授業の質を高める。
- ・札幌市交通局でも出前授業などを検討していたが、それよりは授業に使うための素材を小学校の教諭に提供するほうが、より子どもたちへ伝えられると考える。

## ●平成 25 年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践状況

### (参加者\_感想)

- ・今までの授業内容は、公共交通を使おうという方向に行き過ぎてたという反省があった。そのため、6年生の税金の単元で、バスの補助金を題材にし、税金の仕組みとバスは札幌市民の足だということも気づかせる授業とした。
- ・保護者との懇談会で、児童の親から飲み会の帰りに普段はタクシーを利用していたが、子どもの勧めでバスで帰った。学校ではいろいろなことを学ばせてもらって感謝しているとの言葉ももらった。
- ・公共交通の必要性を感じていない子どもたちがそのまま大人になることは問題だと感じ、子どもの内に教えることの大きな意味を感じた。

## ●次年度以降の取組み・方向性について

### 【決定事項】

- ・検討委員会は今年度で終了したいと考えている。
- ・札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、地域や学校において公共交通を学ぶ機会を設けるという方針もあり、この事業を継続していきたい。

### 【検討事項（議論の内容）】

- ・交通環境学習はまだスタートラインに立った状態。今後もより普及が大切。継続についても普及が重要だと考える。
- ・プラットフォームについては、札幌市のホームページ内に設け、教諭が使いやすい方法を考えていきたい。
- ・仕組みを構築するための支援は助成期間の関係で難しいが、普及への支援（フォーラム等）については可能であるため、開催についての支援は考えている。
- ・4年目以降の交通環境学習の継続実施に向けた役割分担など、継続に向けた仕組み作りを次回委員会までに明確にしてほしい。

## ●その他

- ・「北の交差点」（発行：一般財団法人北海道道路管理技術センター）で札幌らしい交通環境学習について紹介させていただいた。

### 5-1-3 第3回札幌らしい交通環境学習検討委員会開催概要

#### (1) 開催概要

■会 場：(一社)北海道開発技術センター 4F 会議室 (札幌市北区北 11 条西 2 丁目)

■日 時：平成 26 年 3 月 27 日 (木) 15:30～

■出席者：高野伸栄氏 (北海道大学大学院工学院北方圏環境政策工学専攻准教授)

菅野智広氏 (札幌市教育委員会学校教育部指導室指導主事)

新保哲夫氏 (札幌市立幌西小学校校長)

牧野宜英氏 (札幌市立手稲宮丘小学校教諭)

川瀬良司氏 (「地域と教育」を元気にするフォーラム)

白井純信氏 ((株)アドバコム代表取締役)

小松重之氏 (国土交通省北海道運輸局交通環境部環境課長)

#### 【代理出席】

二ノ宮清志氏

(国土交通省北海道開発局

札幌開発建設部都市圏道路計画課道路計画専門官)

#### 議事次第

##### 1 事務局挨拶

##### 2 開会

##### 3 議事

(1) 研究授業の実施状況

(2) 指導案のとりまとめ

(3) Webプラットフォームについて

(4) 3年間の札幌らしい交通環境学習推進事業のまとめ

(5) 今後の札幌らしい交通環境学習の実施について

(6) 平成 25 年度小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業報告書について

(7) その他

##### 4 その他



写真 5-3 会議の様子

## (1) 議事概要

### ●研究授業の実施状況

- ・低学年はリアルな話よりも物語の方がよく理解できる。そこをうまく使って大変良い授業だった。
- ・公共交通機関の整備を行う人に対して手紙を書くということで、1年生にはこのようなアプローチができることがわかり、可能性を感じた授業だった。
- ・「トリー」とは何か？  
→道徳の副読本に掲載されている物語で、電車のキャラクターである。
- ・授業に使用した電車の教材はどうしたのか？  
→内藤教諭自ら作成したもの。

### ●指導案のとりまとめについて

- ・指導案は今後どのように活用するのか？  
→Webプラットフォームに掲載する。また、今後開催するフォーラムで配布する。
- ・指導案は製本するのか？  
→製本の必要はないと考えている。
- ・「本時で活用する資料」に掲載されている資料は、Webプラットフォームに掲載されるのか？  
→類似する資料の掲載を検討している。
- ・指導案等は、ネット上で公開されることはほとんどないので、今回の指導案集の作成は大変価値のあるものである。
- ・今回の指導案集は、これほど体系的にまとめられたものは他に類を見ないものである。
- ・交通エコロジー・モビリティ財団のHPに掲載されている指導案に近い完成度のものを作成できたのではないかと思う。
- ・指導案のタイトルの「推進事業」は入れない方がよい。

### ●Webプラットフォームについて

- ・「学習プログラム」は「小学校における」等をつける方が、小学生向けと理解しやすいと思われる。
- ・検索の方法として、先生がネットで検索するキーワードを考えた場合「環境学習」で検索をしてヒットするようにした方がよい。  
→検討する。
- ・日本モビリティ・マネジメント会議や交通エコロジー・モビリティ財団、委員の関係企業等本HPのリンクを貼ってもらえるようにする。
- ・

### ●3年間の札幌らしい交通環境学習推進事業のまとめ

- ・目標設定とその実施結果については、主観的な記述は掲載しなくても良いのか。  
→あくまでも数値で図れる事実のみとし客観的な評価を行った。
- ・小学校では「〇〇教育」と言われる外部から勧められる授業がある、専門家が来て行う授業

が多い。しかし、本事業は、さまざまな専門分野の人や教育委員会も加わって授業づくりを行い、それを教諭が実践するという大変珍しいものである。いろいろな分野の人たちと関わって行われた良い事業だったと思う。

### ●今後の札幌らしい交通環境学習の実施について

- ・次年度からの事業費はどうなるのか。  
→次年度は、札幌市の単独事業として実施を予定している。
- ・素晴らしい土台ができたと考える。「札幌らしい」という学習内容は、札幌市の教育としては大変価値のある事業である。今後も教育委員会として協力していきたい。
- ・運輸局としては、HP 等に掲載できる最新のデータを提供できるようにしていきたいと考える。
- ・交通局としては、車両基地や電車事業所等は依頼があれば見学が可能なので、今後の体験授業で協力できる。
- ・エコチルでは、新聞やテレビなどの媒体を活用し、本事業の普及等のお手伝いを今後も協力していきたいと考える。
- ・一般の人への PR もしていかなければ、広がりがないのではないかと考える。
- ・バス事業者の出前授業と調整ができれば Web プラットフォームに掲載を考えている。
- ・日本モビリティ・マネジメント会議で本事業の発表をしていただきたい。
- ・札幌市の広報で、本事業について紹介できないのか。  
→年間の計画が決まっており、掲載は難しい。
- ・環境関係団体等で紹介いただければ、関心の高い人が多いと考えられるので事業の PR になると思われる。

### ●平成 25 年度小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業報告書について

- ・検討委員会やWGのメンバーの名簿を掲載する。

### ●その他

- ・交通エコロジー・モビリティ財団挨拶

## 5-2 ワーキンググループの開催

### 5-2-1 第1回ワーキンググループの開催概要

#### (1) 開催概要

■会場：(一社)北海道開発技術センター 9F 会議室 (札幌市中央区南1条東2丁目)

■日時：平成25年5月16日(木) 18:00~20:30

■出席者：新保哲夫氏 (札幌市立幌西小学校長)

牧野宜英氏 (札幌市立手稲宮丘小学校教諭)

河嶋一貴氏 (札幌市立本通小学校教諭)

斉藤健一氏 (札幌市立屯田小学校教諭)

栗原聡太郎氏 (札幌市立山の手南小学校教諭)

佐野浩志氏 (札幌市立山の手南小学校教諭)

河原秀樹氏 (札幌市立福住小学校教諭)

高橋浩史氏 (札幌市立山鼻南小学校教諭)

内藤広大氏 (札幌市立三角山小学校教諭)

玉山大補氏 (札幌市立太平南小学校教諭)

#### 議事次第

- (1) 平成25年度のワーキンググループの体制について
- (2) 平成25年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践について
- (3) 札幌らしい交通環境学習フォーラムについて
- (4) 第8回日本モビリティ・マネジメント会議について
- (5) その他

## (2) 議事概要

### ●平成25年度のワーキンググループの体制について

- ・事務局の人事  
事務局西田部長の後任として新津部長が就任
- ・ワーキンググループの新メンバーの紹介  
山の手南小学校 佐野先生、福住小学校 河原先生、山鼻南小学校 高橋先生、  
三角山小学校 内藤先生、太平南小学校 玉山先生

### ●札幌らしい交通環境学習フォーラムについて

#### ■6年生の授業案 担当：栗原先生

- ・学習指導要領に沿った、社会科の内容とMMが一体となった授業を目指す。
- ・市電のサイドリザベーション方式をテーマにした授業案。

<意見①>他の問題として市街地ばかり開発が進み、郊外が取り残されていることなども考慮されていない。

<意見②>反対している市民の声も考慮し、盛り込むべきではないか。1,000人ワークショップの内容や、パブリックコメント等を参考にしたら良い。

<結論>サイドリザベーションにフォーカスしすぎないようにする。

→延伸が決まり、サイドリザベーション方式でのループ化に至るまでの経緯が分かればいいのではないか。一つのことに政治的判断を下すには、長い時間をかけながら、議会のみでなく市民の声も取り入れられているということを示したい。  
札幌市の市電ループ化について、過去の市民の声が分かるような新聞記事の検索を行い、まとめたらどうだろうか。

#### ■4年生の授業案 担当：佐野先生

- ・札幌市内の公共交通機関のカバー率の高さを取り上げた授業。
- ・カバー率が高い一方で、利用客の減少が続いた場合を授業内で考えていく。

<意見>3年生の単元内容から言えば、人類の移動の歴史や移動の道具の歴史、またそこから派生して、札幌市の開拓初期に人々がどのような移動手段や乗り物を持っていたのかを調べるのもいいかもしれない。

#### ■その他フォーラムについて

- ・研究授業時間をずらし、4年生・6年生を両方見学できるようにする。(終了時刻 15:05)
- ・15:20-16:00 研究授業後の意見交換+パネルディスカッション①

意見交換とパネルディスカッションをつなげて行う形にし、時間を短縮する。

- ・ 16：10－16：50 パネルディスカッション②

札幌市の交通の現状・問題点・課題について議論する。

- ・ フォーラムのチラシを用意し、各先生方には印刷したチラシとPDFの両方を送付。
- ・ 札教研（6/18）にて全市の社会科の先生が集まる時に、チラシを配布する。

### ●第8回日本モビリティ・マネジメント会議について

- ・ 今年度の参加：牧野先生、栗原先生

### ●平成25年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践について

- ・ 10月頃 4年生（担当：河嶋先生、高橋先生）

フォーラムの授業をアレンジして行う。高橋先生の学校から電車事業所までは徒歩で10分なので、授業内で見学も可能。

- ・ 河嶋先生は総合的な学習の時間に、佐野先生の授業の再構成をする形で行う。
- ・ 11月後半頃 3年生（担当 斉藤先生、河原先生）
- ・ 12月頃 6年生（担当：牧野先生、玉山先生）、1年生（担当：内藤先生）
- ・ フォーラムの授業案のめ切：6月28日（金）

## 5-2-2 第2回ワーキンググループの開催概要

### (1) 開催概要

■会 場：(一社)北海道開発技術センター 9F会議室(札幌市中央区南1条東2丁目)

■日 時：平成25年8月15日(木)15:00~18:00

■出席者：新保哲夫氏(札幌市立幌西小学校長)

牧野宜英氏(札幌市立手稲宮丘小学校教諭)

河嶋一貴氏(札幌市立本通小学校教諭)

斉藤健一氏(札幌市立屯田小学校教諭)

栗原聡太郎氏(札幌市立山の手南小学校教諭)

佐野浩志氏(札幌市立山の手南小学校教諭)

河原秀樹氏(札幌市立福住小学校教諭)

高橋浩史氏(札幌市立山鼻南小学校教諭)

内藤広大氏(札幌市立三角山小学校教諭)

### 議事次第

- (1) 札幌らしい交通環境学習フォーラム開催結果
- (2) 第8回日本モビリティ・マネジメント会議参加報告について
- (3) 土木学会「土木と学校教育フォーラム」参加報告について
- (4) 2学期以降の研究授業実践について
- (5) 次年度以降の取組みについて
- (6) その他



写真 5-4 会議の様子

## (2) 議事概要

### ●札幌らしい交通環境学習フォーラム開催結果

#### (授業者\_感想)

- ・授業をもっと単純化し、どの先生にも取り組みやすい内容にしていくことが重要と考えられる。
- ・フォーラムを今回ぐらいの規模で開催することのメリットは高いと感じる。
- ・全国の方々も注目しているので、札幌から発信していけたら良いと考えている。

<意見>アンケート結果からも授業への満足度は高いことが伺える。

<意見>社会以外の先生にも広げていくことも重要と考えられる。

<意見>次年度も実施する方が良いと考えられる。

### ●第8回日本モビリティ・マネジメント会議参加報告について

#### (参加者\_感想)

- ・行政、民間、大学等様々な方が参加する中、皆さんプレゼンテーションが上手であったが、牧野先生も素晴らしかった。
- ・MM教育を実施している地域が多いことを認識した。
- ・特に富山市と仙台市での実践が参考になった。
- ・出前授業ではなく、教諭が授業を実施するスタイルも珍しいことが分かった。
- ・いずれの地域も継続に課題を抱えていることを改めて認識した。

### ●土木学会「土木と学校教育フォーラム」参加報告について

#### (参加者\_感想)

- ・小学校と行政の取組の多くは、出前講座形式で実施されているため、札幌らしい交通環境学習がなぜ教諭主体で実施できているのかという点について質問が多数寄せられた。
- ・これまで培った関係性は財産だと感じた。

### ●2学期以降の研究授業実践について

#### ■内藤先生（札幌市立三角山小学校教諭）

- ・1年生は社会科がないので、生活科での実施可能性を考えたが現状のプログラムでは難しい。

<意見>

- ・国語の「自動車くらべ」の授業で実施する可能性はあると感じる。
- ・道徳で公共交通と関連させて実施する可能性もあると感じる。例えば、勤労感謝など。
- ・過去に良い実践として、お父さんの運転とバスの運転手さんの運転を観察して実施しているケースもあった。

<決定事項>

- ・国語の可能性も考えながら道徳の方向で再検討を行うこととする。
- ・3学期の授業実践を予定。

■高橋先生（札幌市立山鼻南小学校教諭）

- ・総合的な学習の時間での授業を検討している。
- ・山鼻南小は、電車事業所まで徒歩で行ける環境にあるため、路面電車に特化した授業を実施し、その後、バスや地下鉄に広げていきたいと考えている。
- ・過去の路面電車を学習するとともに、電車事業所への見学も実施したい。
- ・新型車輛についても取り上げた授業を実践したい。

<意見>

- ・ササラ電車を取り上げるのも良いのではないか。
- ・ササラ電車は単元でやる方が良い。

<決定事項>

- ・10月下旬に実施の予定で準備を実施

■河原先生（札幌市立福住小学校教諭）

- ・教科は社会科での実施を想定。
- ・地下鉄を軸にしながら、バスが面でカバーされていることの授業の実施を予定。
- ・公共交通率が100%に近いことを3年生の子どもたちにも伝えたい。
- ・福住駅の成り立ちと人口を関連づけた授業の可能性も考えている。

<意見>

- ・土地利用の仕方と絡められると良い。  
⇒指導要領では土地利用がメインであるが、「交通の様子」という、文言もある。
- ・地下鉄駅から遠い児童もいるので、そこからバスに広げていけると良い。
- ・交通の発展と土地利用の因果関係をどう見せるかだと思う。
- ・バスと地下鉄が有機的に絡むことで便利だ、という視点も良いと思う。

<決定事項>

- ・10月中旬に実施の予定で準備を実施

■斉藤先生（札幌市立屯田小学校教諭）

- ・「昔の道具とくらし」という単元での実施を想定している。
- ・札幌市は交通の環境が恵まれていることを認識してほしい。
- ・佐野先生が作成した資料を活用して実施したい。
- ・案として、地下鉄もしくは、かつてあった市営バスを教材にしたい。
- ・思考として、地下鉄でマイレール意識をアップさせたい。市営バスは廃止されたことから、同じような状況にならないために少しでも利用しなければいけないことに気づいてもらうような学習展開にしたい。

<意見>

- ・3年生なのでプラス方向から地下鉄を教材とする方が良いと感じる。
- ・ただ、屯田小が地下鉄沿線ではないことが難しい面を持っている。

- ・地下鉄ができた時のインタビュー等を行うことにより、身近に感じる可能性は高い。

<決定事項>

- ・11月下旬の実施を想定。

■河嶋先生（札幌市立本通小学校教諭）

- ・佐野先生の授業をベースに実施し、総合学習での授業を検討している。
- ・移動手段の調査等を実施しても面白いと感じている。
- ・広げるといふ点については、保護者を巻き込んだ授業展開も検討したい。

<決定事項>

- ・11月下旬の実施を想定。

■牧野先生（札幌市立手稲宮丘小学校教諭）

- ・昨年度、斉藤先生が実践した政治単元でのバスへの補助金の授業の実施を検討している。
- ・ただ、より単純化して実践したい。

<決定事項>

- ・12月上旬の実施を想定。

●次年度以降の取組みについて

- ・指導案／副読本／テスト、といったパッケージングした教材があると広がる可能性は高い。

●その他

- ・次年度のJCOMMは帯広市開催であるが、日程が終業式と同日の可能性はある。
- ・8月17日（土）に札幌市社会科教育連盟の夏の研修会があり、そこで、本事業と作文コンクールについて周知いただける。

### 5-2-3 第3回ワーキンググループの開催概要

#### (1) 開催概要

■会 場：(一社)北海道開発技術センター 4F 会議室 (札幌市北区北 11 条西 2 丁目)

■日 時：平成 26 年 2 月 18 日 (火) 18:00~20:30

■出席者：新保哲夫氏 (札幌市立幌西小学校長)

菅野智広氏 (札幌市教育委員会学校教育部指導室指導主事)

牧野宜英氏 (札幌市立手稲宮丘小学校教諭)

河嶋一貴氏 (札幌市立本通小学校教諭)

斉藤健一氏 (札幌市立屯田小学校教諭)

栗原聡太郎氏 (札幌市立山の手南小学校教諭)

佐野浩志氏 (札幌市立山の手南小学校教諭)

河原秀樹氏 (札幌市立福住小学校教諭)

高橋浩史氏 (札幌市立山鼻南小学校教諭)

#### 議事次第

- (1) 札幌市の公共交通について考える小学生作文コンクール実施結果報告
- (2) 平成 25 年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践状況
- (3) 指導案集の作成について
- (4) 次年度以降の取組みについて
- (5) その他



写真 5-5 会議の様子

## (2) 議事概要

### ●札幌市の公共交通について考える小学生作文コンクール実施結果報告

#### 【報告】

- ・低学年 51 作品、高学年 132 作品、合計で 183 作品の応募数があった。
- ・開催結果は、エコチルの 12 月号に掲載された。

### ●平成 25 年度の札幌らしい交通環境学習の研究授業の実践状況

#### 【報告】

- ・2、3 学期の実践を報告。

### ●指導案集の作成について

#### <意見>

- ・レイアウトを可能な限り統一する。

### ●次年度以降の取組み・方向性について

#### <意見>

#### [組織体制について]

- ・今後の組織体制としては問題ない。
- ・社会科以外の教諭もワーキングメンバーに入ると良いが、動きやすさからすると少ない人数の方が良い。
- ・ワーキングメンバーの教諭への委嘱は 4 月 1 日から行って問題ない。

#### [札幌らしい交通環境学習フォーラムについて]

- ・札幌らしい交通環境学習フォーラムは、10 月に幌西小学校で開催を予定。
- ・文部科学省の人に講演をお願いしてもいいのか？  
→交通エコロジー・モビリティ財団の判断が必要であるが、札幌市としては問題ない。

#### [副読本の検討・作成について]

- ・MM 教育を広めていくには、副読本は重要なツールとなる。
- ・副読本は、1 学期に作成し、フォーラムで紹介する。
- ・副読本のターゲットは 3 年生とし、「市の様子」単元に公共交通を入れ込んだり、「昔の道具」の単元等の授業で作成したりできるのはないか。
- ・教諭用の学習のナビゲーション的なものは、再来年度以降の作成を目指す。
- ・交通局のパンフレットもあるため内容については調整が必要。

### ●その他

- ・札幌市の HP に、「学校教育におけるモビリティ・マネジメント」のページを作成しており、そのページ内で指導案等を掲載させていく。また、指導案を作成するのに必要な公共交通の画像等も使用できるようにする。

## 第6章 本事業の取組み報告

### 6-1 第8回日本モビリティ・マネジメント会議

#### (1) 開催概要

##### ■開催日：

平成25年7月12日（金）～13日（土）

※12日は、午前中仙台事務局主催にて開催地企画、午後より JCOMM セッション

※13日は、終日 JCOMM セッション

##### ■会場：

宮城県仙台市 仙台市民会館（仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1）

##### ■主催：

一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議

##### ■共催：

仙台市、(社) 土木学会、(一財) 計量計画研究所、(株) ケー・シー・エス  
(株) パシフィックコンサルタンツ

##### ■本プロジェクトに関する発表

発表タイトル：「札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えた MM 教育の実践的取組み」

発表者：札幌市立手稲宮丘小学校 牧野 宜英

連名者：札幌市立山の手南小学校 栗原 聡太郎

札幌市市民まちづくり局総合交通計画部：有塚 広之・稲村 輝

一般社団法人北海道開発技術センター：大井 元揮・工藤 みゆき

北海道大学大学院工学研究院：高野 伸栄

発表日時：7月13日（土） 10：10～11：10 口頭発表4

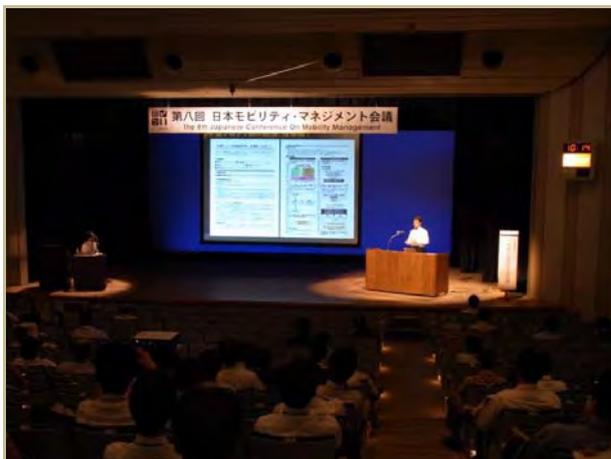


図 6-1 会場の様子

## (2) 発表内容

以下に発表資料を示す。

交通エコロジー・モビリティ財団支援事業

### 札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取り組み

札幌市立手稲宮丘小学校 牧野 宣英  
 札幌市立山の手南小学校 栗原 聡太郎  
 札幌市市民まちづくり局総合交通計画部 有塚 広之  
 一般社団法人北海道開発技術センター 稲村 輝  
 北海道大学大学院工学研究院 大井 元輝  
 工藤 みゆき  
 高野 伸亮

### 背景・目的

- MM教育に関連する団体は多様。連携が不十分。
    - 関係団体: 交通局・運輸局・開発局・バス協会・札幌市交通事業振興公社 等
- 『過度な自動車利用を抑制・公共交通の利用の拡大』を図る団体が連携を実施することで、より効果的・効率的に学校を支援可能になる

### 本プロジェクトの検討・推進体制



### 学習プログラムの開発(指導案)

札幌市らしい交通環境学習 指導案 [社会科01]

学習指導要領と連動した学習プログラムの開発

1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施

教諭が主体となった授業の実施

札幌市内小学校へのMM教育の広がり

関係団体等の連携体制の構築

### 背景・目的

- 大半の実践事例が『出前講座形式』
  - 行政側から学校側へ「交通環境学習をやらせていただきたい」と要請
  - 学校側が1時間～3時間程度、授業のコマ数を確保
  - 行政職員やコンサルタントが「ゲストティーチャー」として授業を実施

MM教育を札幌市の小学校全体に拡大するには、出前講座形式では限界がある。

- 大半の実践事例が『5年生』を対象

各学年でMM教育を実施することにより、効果は、より確かなものになる。

### 本プロジェクトの目標

現状を踏まえ、5つの目標と本プロジェクトにおける実施内容を整理

目標	実施・検討内容等
目標1 学習指導要領と連動した学習プログラムの開発	・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討
目標2 1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施	・研究授業の蓄積
目標3 教諭が主体となった授業の実施	・教諭が主体となった授業実践を実施
目標4 札幌市内小学校へのMM教育の広がり	・教諭に配布される指導書への掲載 ・webプラットフォームによる情報提供
目標5 関係団体等の連携体制の構築	・協働体制の構築 ・webプラットフォームによる情報共有

### 学習プログラムの開発(指導案)

札幌市らしい交通環境学習 指導案 [社会科01]

学習指導要領と連動した学習プログラムの開発

1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施

教諭が主体となった授業の実施

札幌市内小学校へのMM教育の広がり

関係団体等の連携体制の構築

### 学習プログラムの開発(児童用テキスト)

札幌市らしい交通環境学習 指導案

身近な公共交通と私たちの暮らし

### 研究事業の蓄積・教諭が主体となった授業実践の実施

実施時期	学校	学年	教科	担当教諭	授業内容
H23年度(3学期)	屯田小	5年生	社会	斉藤先生	暮らしを支える情報
H24年度(1学期)	手稲宮丘小	5年生	総合	牧野先生	環境について考えよう
H24年度(1学期)	山の手南小	5年生	総合	栗原先生	環境HOT COM
H24年度(2学期)	本通小	3年生	社会科	河嶋先生	もっと知りたいみんなのまち
H24年度(2学期)	屯田小	6年生	社会科	斉藤先生	暮らしの中の政治
H25年度(1学期)	山の手南小	4年生	総合	佐野先生	身近なバスと私たちの暮らし
H25年度(1学期)	山の手南小	6年生	社会科	栗原先生	暮らしの中の政治

### 3日間の交通行動調査に基づく診断カルテの提供

**交通診断カルテ [5年 3組 先生]**

6/15 金 6/16 土 6/17 日

あなたの1年間の行動で出した「CO<sub>2</sub>排出量」を減らすために必要な緑木の本数は **3本**

あなたが3日間で使ったカロリーをクッキーの枚数に置き換えると **10枚**

※コメント: 本日は、環境に配慮を促すだけでなく、自転車は、健康に良い交通手段であり、また、燃費にも優れています。これらに配慮、自転車による移動を検討してください。

多くの小学校教諭に知っていただくために・・・

### 『札幌らしい交通環境学習フォーラム』を開催

- 開催日時: 2013年7月4日(木) 13:30~17:00
- 対象: 札幌市内の小中学校教諭
- 場 所: 札幌市立山の手南小学校
- プログラム:
  - 13:30 ~ 14:15 (45min) 公開授業① (授業者: 佐野教諭【4年生】) 『身近なバスと私たちの暮らし』
  - 14:20 ~ 15:05 (45min) 公開授業② (授業者: 栗原教諭【6年生】) 『暮らしの中の政治~市電から札幌市の政治がみえる~』

**100名**  
を超える参加者



- 16:10 ~ 17:00 (50min) パネルディスカッション  
『札幌らしい交通環境学習~学習教材としての『交通』とは~』  
【コーディネーター】新保 元康氏(札幌市立西小学校 校長)  
【パネリスト】高野 伸栄氏(北海道大学大学院工学院 准教授)  
白井 純信氏(㈱アドバコム代表取締役)  
阪部 彰治氏(札幌大通まちづくり株式会社 取締役総務部長)  
新津 順一氏(札幌市市民まちづくり局総合交通計画部公共交通担当部長)



### 授業の様子



### 教諭に配布される指導書への掲載

- 【目的】
  - MM教育を出前講座形式ではなく、教諭主体で実施
  - MM教育を札幌市小学校全体に広める
- 【方法】
  - 研究授業を数多く実践し、カリキュラム構築
- 【留意点】
  - MM教育を広めるために、「誰でも実施可能なカリキュラム構築」を実施。

- 15:20~16:00 (40min) 公開授業 意見交換会  
『交通環境学習の方向性~環境意識や公共の精神の醸成を目的として~』  
【進行】菅野指導主事 【授業者】佐野教諭・栗原教諭



### Q.公開授業の内容はいかがでしたか?



### Q.『交通』を題材にした授業を 実践してみようと思いましたか?



## webプラットフォームによる情報提供・共有体制の構築

### 【目的】

- 学校・教諭への授業に用いるツール等の提供
- 関係者間・教諭間・関係者・教諭間の情報共有・連携
- 交通環境学習の認知度・必要性の向上



## webプラットフォームによる情報提供・共有体制の構築

The screenshot shows the homepage of the '札幌らしい交通環境学習プラットフォーム' (Sapporo-like Traffic Environment Learning Platform). Red arrows point from callout boxes on the right to specific features on the website:

- <関係団体>**: 関係団体からのお知らせ、自治体、交通事業者、事務局からの情報を掲載。
- <授業資料等>**: 社会調査や市民提案の実践の様子を掲載。
- <資料室>**: 関係団体の広報資料、関係団体情報をアップロードし、ユーザーがダウンロードできる構成。
- <学校から>**: 学校からのお知らせ、教育機関からの情報を掲載。

## 本プロジェクトの成果と今後の展開

### 【現段階における本プロジェクトの成果】

- 3～6年生の交通に関する指導案を立案
- 4年生では、児童用のテキストも作成
- フォーラム等を通じ、認知度も徐々に増加

### 【今後の展開】

- 都市交通に関するデータ等のコンテンツ提供の充実
- 札幌市内全域の小学校への広がりを見据え、指導書への掲載に向け、ラストスパート

## 6-2 土木と学校教育フォーラム

### (1) 開催概要

■開催日：

平成 25 年 7 月 28 日（日）

■会場：

土木学会（東京都新宿区四ツ谷）

■概要：

「土木と学校教育フォーラム」は、初等中等教育における道や川、まちといった様々な社会基盤・公共財を題材とした初等中等教育のあり方を考え、児童・生徒のシティズン・シップ教育に資することをねらいとして、「全国」の土木と学校教育の双方の専門家と実践者が集まり、種々の研究発表、事例紹介を行う場。

■主催：

土木学会 担当：教育企画・人材育成委員会 「土木と学校教育会議」検討小委員会

■共催：

（公財）交通エコロジー・モビリティ財団

■本プロジェクトに関する発表

発表タイトル：「札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えた MM 教育の実践的取組み」

発表者：札幌市立幌西小学校 新保哲夫 校長

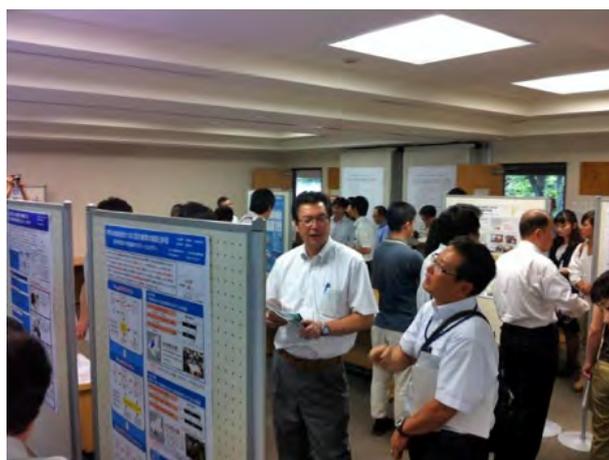


図 6-2 会場の様子

(2) 発表内容

以下に、発表内容を示す。

交通エコロジー・モビリティ財団支援事業

# 札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取組み

新保元廣 [札幌市立南小学校長]、新津順一 [札幌市市民まちづくり局総合交通計画課]、原文宏 [一般社団法人北海道開発技術センター]、谷口諭子 [筑波大学大学院システム情報工学研究科]、高野伸崇 [北海道大学大学院工学研究科]

## 背景と目的

- 1 大半の実践事例が「出前講座形式」**  
 行政側から学校側への交通体感学習をやらせていたが「教材や資料が1冊で3時間程度、授業のコマ数を伸ばして欲しい」という要望や「出張費やコンサルタントの長時間チャージ」として課題を発生。  
**MM教育を札幌市の小学校全体に拡大するには、出前講座形式では限界がある。**
- 2 大半の実践事例が「5年生」を対象**  
 各学年でMM教育を実施することにより、効果はより豊かなものになる。
- 3 MM教育に関連する団体は多様、連携が不十分。**  
 札幌市内交通系・環境系・福祉系・IT系系・札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会。  
**「適度な自転車利用を抑制・公共交通の利用拡大」を掲げる団体が連携を実施することで、より効果的・効率的に学校を支援できる。**

## 研究事業の蓄積・教諭が主体となった授業の実施

実施年度	学校	学年	教科	実施形態	担当教員
H22年度(1学期)	山の手小	3年生	社会	出張形式	藤田先生
H24年度(1学期)	手塚小	5年生	理科	出張形式	藤田先生
H24年度(1学期)	山の手小	5年生	理科	出張形式	藤田先生
H24年度(2学期)	山の手小	3年生	社会	出張形式	藤田先生
H24年度(2学期)	山の手小	5年生	社会	出張形式	藤田先生
H25年度(1学期)	山の手小	4年生	総合	出張形式	藤田先生
H25年度(1学期)	山の手小	6年生	社会	出張形式	藤田先生

## 本プロジェクトの目標とそれに対応した実施内容

目標	実施内容
目標① 伊賀市で実践と成功した学習プログラムの開発	・教育者全体とするワーキンググループを設立し、学習プログラムを開発 ・研究費の確保
目標② 1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施	・教諭が主体となった授業の実施
目標③ 教諭が主体となった授業の実施	・教諭が主体となった授業の実施
目標④ 札幌市内小学校へのMM教育の広がり	・教諭が主体となった授業の実施 ・webプラットフォームによる情報提供 ・教諭が主体となった授業の実施
目標⑤ 教諭が主体となった授業の実施	・教諭が主体となった授業の実施 ・webプラットフォームによる情報提供

## プロジェクトの検討・推進体制

### 札幌らしい交通環境学習検討委員会

学習検討会  
 委員：札幌市教育委員会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会

行政調整  
 札幌市教育委員会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会

事務局  
 札幌市教育委員会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会、札幌市交通系連携協議会

## 「札幌らしい交通環境学習フォーラム」開催

開催日時：2015年10月4日(土) 13:30～17:00  
 会場：第二札幌市内小学校  
 参加者：札幌市立山の手小学校  
 参加者数：100名  
 100名を超える参加者！

プログラム：  
 ・13:30～14:15(60分) 式典(開会式、挨拶、表彰状授与)  
 ・14:15～15:00(45分) 札幌市立山の手小学校  
 ・15:00～15:45(45分) 札幌市立山の手小学校  
 ・15:45～16:30(45分) 札幌市立山の手小学校  
 ・16:30～17:00(30分) 札幌市立山の手小学校

## 学習プログラムの開発

【教材】  
 ・MM教育を山手町形式ではなく、副都心で実施  
 ・MM教育を札幌市小学校全体に広げる

【教材】  
 ・教材費を減らすために、「画でも印刷可能なカリキュラム教材」を開発

【指導案】  
 ・教材費を減らすために、「画でも印刷可能なカリキュラム教材」を開発

【児童用テキスト】  
 ・教材費を減らすために、「画でも印刷可能なカリキュラム教材」を開発

## 本プロジェクトの成果と今後の展開

【現時点における本プロジェクトの成長】  
 ● 3～6年生の交通に関する指導案を立案  
 ● 4年生では、児童用のテキストも作成  
 ● フォーラム等を通じ、認知度も徐々に増加

【今後の展開】  
 ● 都市交通に関するデータ等のコンテンツ提供の充実  
 ● 札幌市内全域の小学校への広がりを見据え指導書への掲載に向け、ラストスパート

【お問い合わせ】一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究科 大井元輝 e-mail:soh@kpcnet.jp

図 6-3 発表ポスター

### 6-3 小学生作文コンクール

#### (1) 開催概要

##### ■目的：

エコチル紙面において公共交通の現状や課題を周知するとともに、児童の取組（作文等）を通じて、公共交通について考えるきっかけを創造する。

〈「公共交通について考える」きっかけづくりプロジェクト企画〉

##### ■エコチルでの紙面掲載・募集：

8月号（8月20日発行）に掲載

##### ■実施企画

●実施企画： 「公共交通の作文コンクール」

●内容： ・エコチルを通じて公共交通の現状や課題を周知。  
・児童が「公共交通」に関連した作文を作成/応募。  
・応募のあった作品を審査し表彰。

●応募対象：札幌市内に居住する小学生

●応募期間：平成25年8月20日～10月31日

●審査方法：札幌らしい交通環境学習検討委員会委員より審査員を選定し審査  
（高野委員長・川瀬委員・内山委員・臼井委員）

●主催：㈱アドバコム エコチル編集部

●共催：札幌らしい交通環境学習検討委員会

●協賛：「地域と教育」を元気にするフォーラム

●後援：（公財）交通エコロジー・モビリティ財団、札幌市、札幌市教育委員会、  
（一財）札幌市交通事業振興公社、ジェイ・アール北海道バス㈱、  
㈱じょうてつ、北海道中央バス㈱

●応募作品数：183作品

■ エコチルでの掲載：エコチル12月号、エコチルHPに掲載

##### ■ 実施結果

●応募総数：183作品

●受賞：最優秀賞…1点  
低学年優秀賞…1点  
高学年優秀賞…1点  
佳作……………10点



1 札幌市の公共交通に関すること

小学生 1年生

課題

「つぎのえきでおりるよ」とまたわたしは「おかあさんにおこされました。バスセンターまええきから、しんざつぼろえきまで、ずとねてしまいました。」

「どうしてだろう。」とわたしは「このころはふしぎでいっぱいになりました。」

「おおかあさんはいくけれどわたしはほかのこきおも

2 札幌市の公共交通に関すること

小学生 1年生

課題

「いきました。それはけしきがみえないから、たいくつなんです。だからわたしは、ちかてつにのるとねてしまふのだとおもいます。ちかてつにのるといふもちょうどいいおんどだし、ゆかさめると、「あれ？きせつはいつだ？け？」とわからなくなることあります。」

「もし、ちかてつのはかにきせつのはえや、たのしいき

たくさん応募をありがとう！  
作文コンクールの  
入賞作品を紹介するよ！

エコチル8月号で募集した「札幌市の公共交通」について考える小学生作文コンクールには、183作もの応募がありました。こんな公共交通があったらいいなという夢や、公共交通を使つたときに感じた思い、公共交通の良い点、悪い

点をまとめたレポートなど、その内容はさまざまで、一生懸命書いてくれた気持ちが伝わってくる作品ばかりでした。

2013年11月、審査員による厳正な審査の後、受賞者が決定しました。ここでは、最優秀賞の作文を紹介します。スペースの都合で、残念ながら紹介できない受賞作品は、エコチルネットに掲載しています。みなさん、ぜひ読んでみてくださいね！

結果発表!!

小学生 作文コンクール

札幌市の公共交通について考える

主催: 函アド/コム エコチル編集部  
共催: 札幌らしい交通環境学習検討委員会  
協賛: 「地域と教育」を元気にするフォーラム  
後援: 公共交通エコロジー・モビリティ財団 札幌市 札幌市教育委員会 (一財)札幌市交通事業協賛公社 シェアール北海道 / ス(株) (新)はつてつ 北海道中央バス(株) 札幌

佳作当選者

越後 夕さん	札幌緑小学校	1年
花田 陽咲さん	丘珠小学校	3年
佐藤 星太郎くん	手稲宮丘小学校	6年
橋本 朱悠さん	手稲宮丘小学校	6年
藤堂 友貴乃さん	手稲宮丘小学校	6年
木曾 玲皇くん	手稲宮丘小学校	6年
大森 拓己くん	手稲宮丘小学校	6年
三浦 健太くん	百合が原小学校	6年
星野 蒼乃さん	発寒東小学校	6年
堀内 蒼乃さん	北園小学校	6年

黒川さんの受賞コメント

高学年 優秀賞

黒川 歩夢さん  
手稲宮丘小学校 6年

すごくうれしいです。これからも出かける時は、みんなとの触れ合いを大事にして、公共交通を利用したいです。

東椛佑くんの受賞コメント

低学年 優秀賞

東 椛佑くん  
福住小学校 3年

赤ちゃんがバスや地下鉄に乗るときに、「もつと楽しくなるように」と考えて書きました。賞をもらえてうれいです。

亀山さんの受賞コメント

最優秀賞

亀山 寧々さん  
札幌小学校 1年

すばらしい賞をもらってとても嬉しくて、とてもうれしいです。私かなでこの作文を書いたかと言ったら、心はずむような地下鉄に乗りたいたいと思つたからです。地下鉄のことを一生懸命考えて書いたので、地下鉄がもっともっと好きになりました。



## 第7章 本事業のまとめと今後の実施内容

### 7-1 本事業のまとめ

表 7-1に本事業の目標とそれに対応した平成 23 年度からこれまでの実施結果を整理する。

目標①の「学習指導要領と連動した学習プログラムの開発」に対応する実施結果として、平成 23・24 年度は、小学校長 1 名、小学校教諭 5 名、教育委員会係長職 1 名を構成員とするワーキンググループを設置し、MM 教育の実践の可能性についての検討を実施し、また、平成 25 年度においては、新たに 5 名の小学校教諭に参画いただき、より発展的な学習プログラムの開発が実施された。

また、目標②の「1 年生～6 年生まで、各学年における MM 教育の実施」については、平成 23 年度に 1 校と平成 24 年度に 4 校で研究授業を実践し、さらに、平成 25 年度は、8 名の教諭が、研究授業を実践し、3 か年合計としては、1 年生 1 校・3 年生 3 校・4 年生 3 校・5 年生 3 校・6 年生 3 校と計 13 校において、研究授業を実施した。ここで、2 年生の実践実績はなく、1 年生から 6 年生までという目標の達成には至らなかったものの、1 年生と 3 年生の授業実践実績を応用し、2 年生の授業を実践することは可能と考えられる。

加えて、目標③の「教諭が主体となった授業の実施」については、計 13 校において実践した研究授業は何れも教諭が主体となって指導案を作成し、授業実践を行ったものであることから、目標は十分に達成できたものと思われる。

また、目標④の「札幌市内小学校への MM 教育の広がり」については、これまでの研究授業の各教諭に作成いただいた指導案を指導案集として、1 冊にまとめるとともに、次年度、副読本を作成することを検討した。さらに、試行的に運用した Web プラットフォームについても、札幌市役所のホームページに掲載することで、より、多くの教諭がアクセスしやすい環境整備を図った。加えて、平成 25 年度においては、教諭を対象とした『札幌らしい交通環境学習フォーラム』を開催し、ワーキンググループ以外の教諭に対しての周知を図り、さらに、参加者へのアンケートより、多くの教諭に実践いただける可能性を改めて実感したところである。

最後に、目標⑤の「関係団体等の連携体制の構築」については、平成 24 年度及び平成 25 年度に、札幌らしい交通環境学習検討委員会構成員であり、子ども環境情報誌(エコチル)を発行する㈱アドバコムと連携し、公共交通の重要性に関する記事掲載に合わせ作文コンクールを実施したところである。また、交通事業者との連携で電車事業所の見学などの体験学習が実施された。さらに、次年度以降も札幌らしい交通環境学習検討委員会構成員との連携体制が継続されることとなった。

以上のように、平成 23 年度から平成 25 年度の期間において実施した札幌らしい交通環境学習プロジェクトは当初、設定した目標を概ね達成し、さらに、平成 26 年度以降は次のステップに向けて、展開するものである。

表 7-1 本事業の目標とそれに対応したこれまでの実施結果

目標		実施結果
目標 ①	学習指導要領と連動した学習プログラムの開発	⇒ ・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討 ・研究授業の蓄積 ⇒2年生を除き、他学年においては研究授業を実践 ※3年生以上は、各学年3回以上の実績 (1年生:1校・3年生:3校・4年生:3校・5年生:3校・6年生:3校)
目標 ②	1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施	
目標 ③	教諭が主体となった授業の実施	⇒ ・教諭が主体となった授業実践を実施 【平成23年度】 (札幌市立屯田小学校:斉藤教諭) 【平成24年度】 (札幌市立手稲宮丘小学校:牧野教諭) (札幌市立山の手南小学校:栗原教諭) (札幌市立本通小学校:河嶋教諭) (札幌市立屯田小学校:斉藤教諭) 【平成25年度】 (札幌市立山の手南小学校:佐野教諭) (札幌市立山の手南小学校:栗原教諭) (札幌市立福住小学校:河原教諭) (札幌市立山鼻南小学校:高橋教諭) (札幌市立本通小学校:河嶋教諭) (札幌市立屯田小学校:斉藤教諭) (札幌市立手稲宮丘小学校:牧野教諭) (札幌市立三角山小学校:内藤教諭)
目標 ④	札幌市内小学校へのMM教育の広がり	⇒ ・指導案集の作成 ・副読本作成についての検討 ・Webプラットフォームによる情報提供 ・教諭を対象とした『札幌らしい交通環境学習フォーラム』の開催
目標 ⑤	関係団体等の連携体制の構築	⇒ ・協働体制の構築に向けた検討 ⇒こども環境情報誌エコチルと連携した札幌市の公共交通について考える作文コンクールを平成24年度・25年度に実施 ⇒交通事業者と連携した体験学習を実施 ⇒学識経験者・行政機関・関係団体・市民代表・交通事業者との連携体制は、次年度以降も継続

表 7-2 検討委員会メンバー

	所属	氏名	期間
学識経験者	北海道大学大学院工学研究科 准教授	高野 伸栄	平成 23 年度～平成 25 年度
	筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授	谷口 綾子	平成 23 年度～平成 25 年度
小学校関係	札幌市教育委員会学校教育部教育推進課 指導担当係長	上田 繁成	平成 23 年度～平成 24 年度
	札幌市教育委員会学校教育部指導室 指導主事	菅野 智広	平成 25 年度
	札幌市立幌西小学校長	新保 哲夫	平成 23 年度～平成 25 年度
	札幌市立手稲宮丘小学校教諭	牧野 宜英	平成 23 年度～平成 25 年度
関係団体・市民団体	札幌地区バス協会	岩崎 友雄	平成 23 年度
	札幌地区バス協会	古屋 武	平成 24 年度
	札幌地区バス協会	日野 健一	平成 24 年度～平成 25 年度
	(財)北海道環境財団 情報交流課長	内山 到	平成 24 年度～平成 25 年度
	「地域と教育」を元気にするフォーラム	川瀬 良司	平成 23 年度～平成 25 年度
	(株)アドバコム 代表取締役	臼井 純信	平成 23 年度～平成 25 年度
行政関係	国土交通省北海道運輸局 交通環境部環境課長	杉田 敏夫	平成 23 年度
	国土交通省北海道運輸局 交通環境部環境課長	小松 重之	平成 24 年度～平成 25 年度
	国土交通省北海道開発局札幌開発建設部 都市圏道路計画課長	池田 武司	平成 23 年度
	国土交通省北海道開発局札幌開発建設部 都市圏道路計画課長	平井 篤夫	平成 24 年度～平成 25 年度
	札幌市交通局事業管理部長	小西 正雄	平成 23 年度～平成 24 年度
	札幌市交通局事業管理部長	中田 雅幸	平成 25 年度

表 7-3 WGメンバー

所属	氏名	期間
札幌市教育委員会学校教育部教育推進課 指導担当係長	上田 繁成	平成 23 年度～平成 24 年度
札幌市教育委員会学校教育部指導室 指導主事	菅野 智広	平成 25 年度
札幌市立幌西小学校長	新保 哲夫	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立手稲宮丘小学校教諭	牧野 宜英	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立本通小学校教諭	河嶋 一貴	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立円山小学校教諭	向坊 紫織	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立屯田小学校教諭	斉藤 健一	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立山の手南小学校教諭	栗原 聡太郎	平成 23 年度～平成 25 年度
札幌市立福住小学校教諭	河原 秀樹	平成 25 年度
札幌市立山鼻南小学校教諭	高橋 浩史	平成 25 年度
札幌市立太平南小学校教諭	玉山 大補	平成 25 年度
札幌市立三角山小学校教諭	内藤 広大	平成 25 年度

## 7-2 今後の実施内容

### 7-2-1 今後の実施内容

今後の本プロジェクトの目標は、『事業の拡大的継続』であり、この目標を達成するためには、『授業しやすい環境をデザイン』と『多くの教諭の関心をデザイン』が必要と考える。

まず、『授業しやすい環境をデザイン』については、3か年で実施してきた事項を継続的に実施するとともに、これまでの検討委員会やワーキンググループでの議論を踏まえ、補助教材としての副読本の作成を予定する。ここで、副読本については、対象とする学年を小学校3年生とし、交通局との連携により内容の充実を図るとともに、この副読本に関する教師用指導書についても検討・作成を実施する予定である。

さらに、各学習のクオリティを向上するために、教諭のニーズに応じて、学校内にバス車両を持ち込むことや電車事業所の見学をする等の体験型の学習についても推進を図っていきたいと考える。

また、『多くの教諭の関心をデザイン』については、平成25年度に実施した教諭向けフォーラムを今後も実施するとともに、教育関係者対象の研究会等についても積極的に参加し、教諭への周知活動を実施していきたいと考えている。

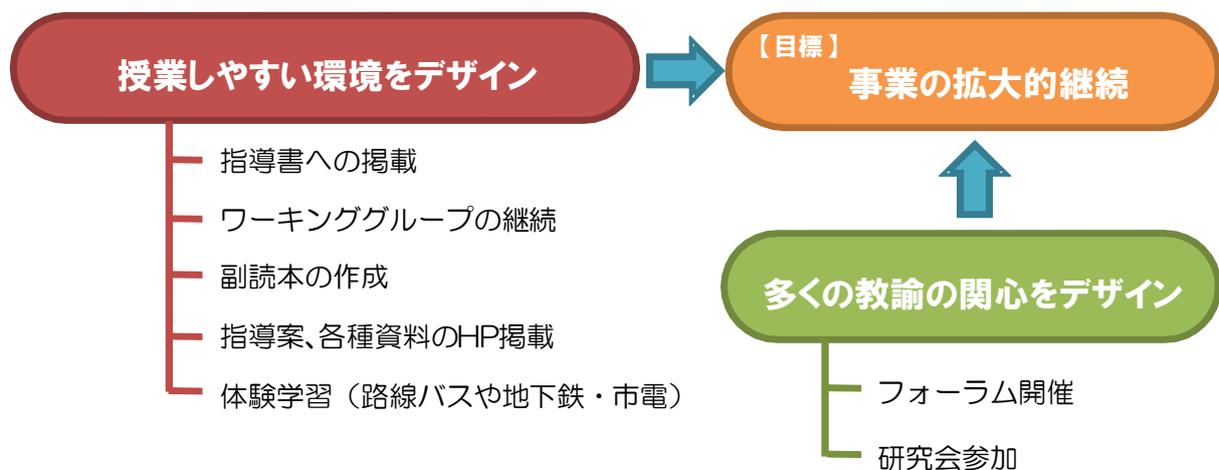


図 7-1 今後の本プロジェクトの目標と実施内容

### 7-2-2 本事業を推進する組織体制

前項で記述した目標と実施内容を踏まえ、平成26年度以降は、平成23年度から活動を実施している教材開発ワーキンググループ中心の展開を予定し、特に、副読本作成を含め、对学校・教諭へのアプローチに傾注しながら、プロジェクトを推進する。

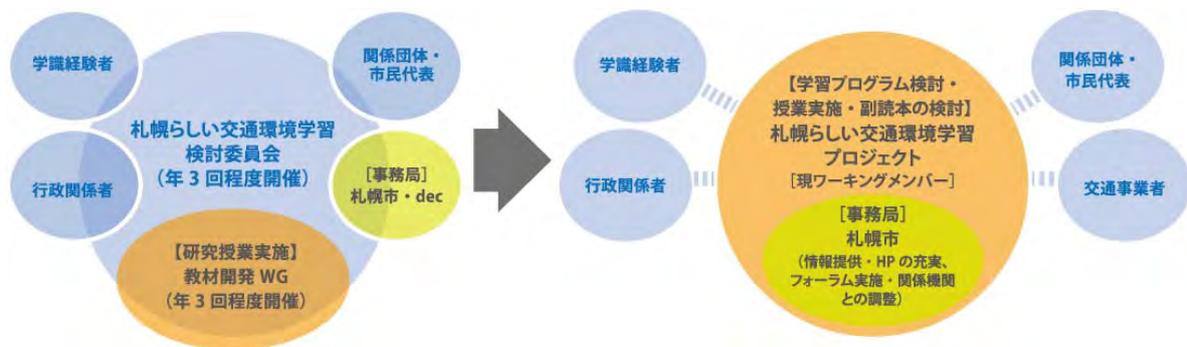


図 7-2 平成 26 年度以降の推進体制

### 7-2-3 今後の実施スケジュール

今後の実施スケジュールを以下に示す。平成26年度は、新規の実施内容として、副読本作成を第一四半期において実施し、副読本完成後は、この副読本を活用した授業実践を展開する。さらに、フォーラムにおいても完成した副読本を参加者に提供する予定である。また、これまで活動してきたプロジェクト会議やWebページの運営については、引き続き、継続していくことを予定している。

表 7-4 平成 26 年度以降のスケジュール

